

平成 28 年社会生活基本調査 福井県の概要

◆ 生活行動編 ◆

平成 29 年 9 月
福 井 県

目 次

結果の概要

1	学習・自己啓発・訓練	1
2	ボランティア活動	5
3	スポーツ	11
4	趣味・娯楽	17
5	旅行・行楽	24

調査の概要	28
-------	----

用語の説明	30
-------	----

— 利用上の主な用語 —

○行 動 者 数 ……過去1年間（平成27年10月20日～平成28年10月19日）に該当する種類の活動を行った人（10歳以上）の数。なお、数値は母集団における行動者数の推定値である。

○行 動 者 率 ……10歳以上人口に占める行動者数の割合（%）

— 利用上の注意 —

- 1 本文および図表中の数値は、表章単位未満の位で四捨五入していること、また、総数に「不詳」の数を含むことから、総数と内訳を合計した数値とは必ずしも一致しない。
- 2 表中の「0」および「0.0」は、集計した数値が表章単位に満たないものである。
- 3 表中の「—」は、該当数字のない箇所である。
- 4 ポイント差は、表章数値から算出している。
- 5 本文中の各活動の種類名については、一部を省略している。

結果の概要

1 学習・自己啓発・訓練

- ・「学習・自己啓発・訓練」の行動者率は34.3%、5年前より1.8ポイント上昇
- ・男性が33.3%、女性が35.2%と女性が男性より1.9ポイント高い

「学習・自己啓発・訓練」について、過去1年間（平成27年10月20日～28年10月19日。以下同じ。）に何らかの種類の活動を行った人（10歳以上）の数（以下「行動者数」という。）は237千人となり、10歳以上人口に占める割合（以下「行動者率」という。）は34.3%となった。前回調査の平成23年に比べ、行動者率は1.8ポイント上昇したものの、全国と比較すると2.6ポイント低く、全国第17位となった（前回第19位から2ランク上昇）。比較可能な平成8年以降、常に全国を下回っている。〔図1〕

行動者率を年齢階級別にみると、44歳以下および55～64歳において平成23年より上昇している。また、10～14歳および55～64歳の行動者率が全国を上回っており、ともに全国第8位となった。〔図2〕

図1 「学習・自己啓発・訓練」の行動者率の推移（平成8年～28年）

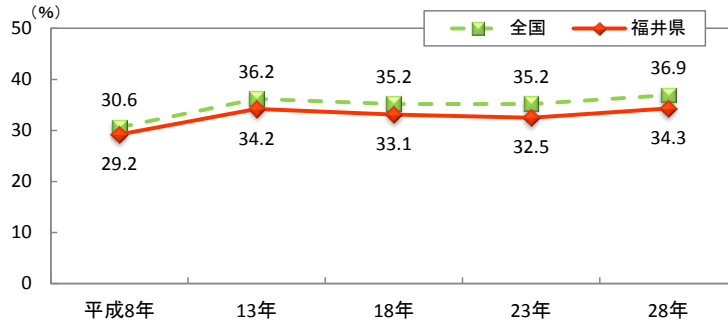
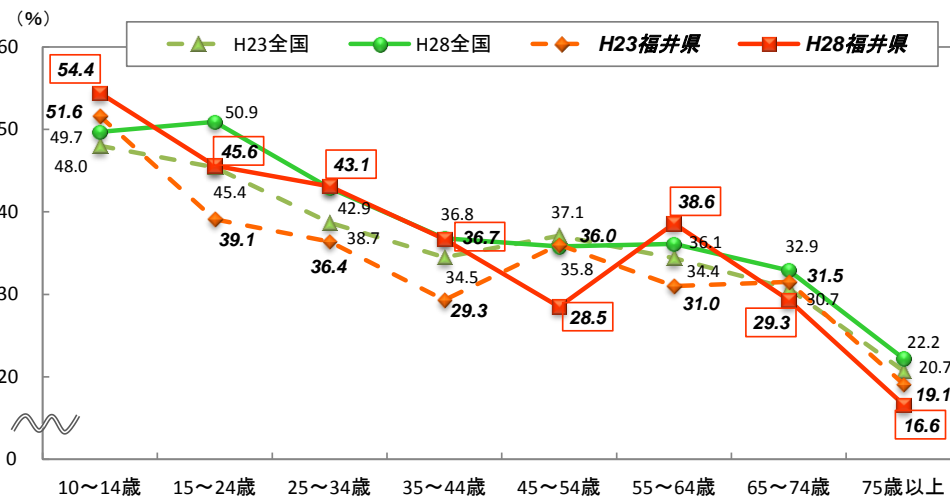


図2 「学習・自己啓発・訓練」の年齢階級別行動者率（平成23年、28年）



男女別にみると、行動者数は男性が112千人、女性が125千人となり、行動者率は男性が33.3%、女性が35.2%となった。女性の行動者率が男性より1.9ポイント高くなっており、平成23年と比べると、男性は2.6ポイント上昇、女性は0.9ポイント上昇した。〔図3〕

行動者率を年齢階級別にみると、75歳以上を除くすべての年齢階級において女性のほうが高くなっている。〔図4〕

図3 「学習・自己啓発・訓練」の男女別行動者率の推移（平成8年～28年）

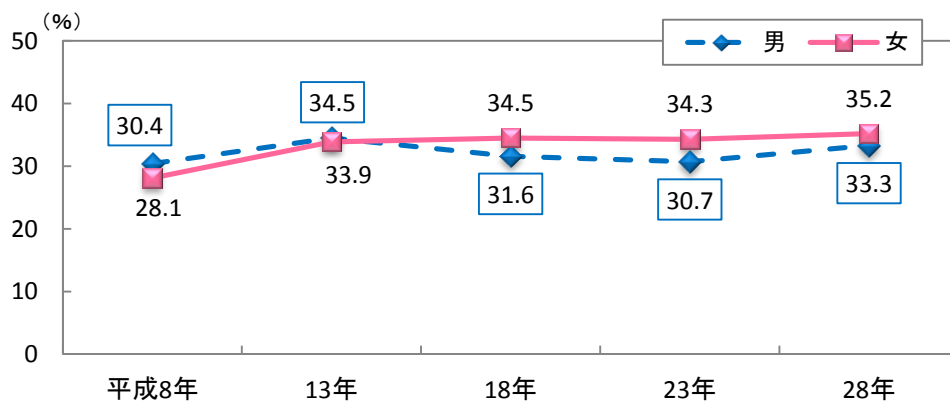
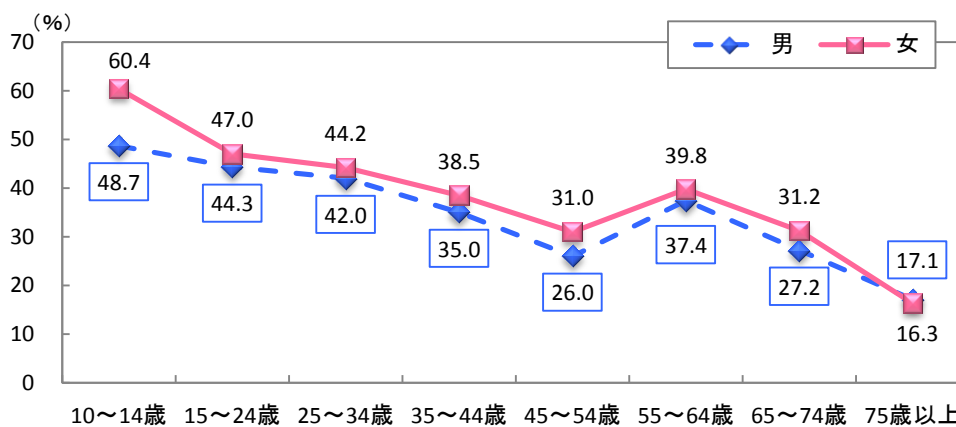


図4 「学習・自己啓発・訓練」の男女、年齢階級別行動者率（平成28年）



・「学習・自己啓発・訓練」の種類別では、
 男性は「パソコンなどの情報処理」、女性は「家政・家事」の行動者率が最も高い

「学習・自己啓発・訓練」の種類別に行動者率をみると、「パソコンなどの情報処理」が11.4%と最も高く、次いで「家政・家事」が10.9%、「芸術・文化」が9.8%などとなっている。平成23年と比べると、すべての種類において行動者率が上昇したものの、全国と比べると、「介護関係」および「その他」以外のすべての種類において全国を下回っている。〔図5〕

男女別にみると、男性は「パソコンなどの情報処理」が13.6%と最も高く、次いで「その他」が9.5%、「英語」および「商業実務・ビジネス関係」が9.4%などとなっている。女性は「家政・家事」が15.7%と最も高く、次いで「芸術・文化」が11.7%、「パソコンなどの情報処理」が9.3%などとなっている。〔図6〕

図5 「学習・自己啓発・訓練」の種類別行動者率（平成23年、28年）

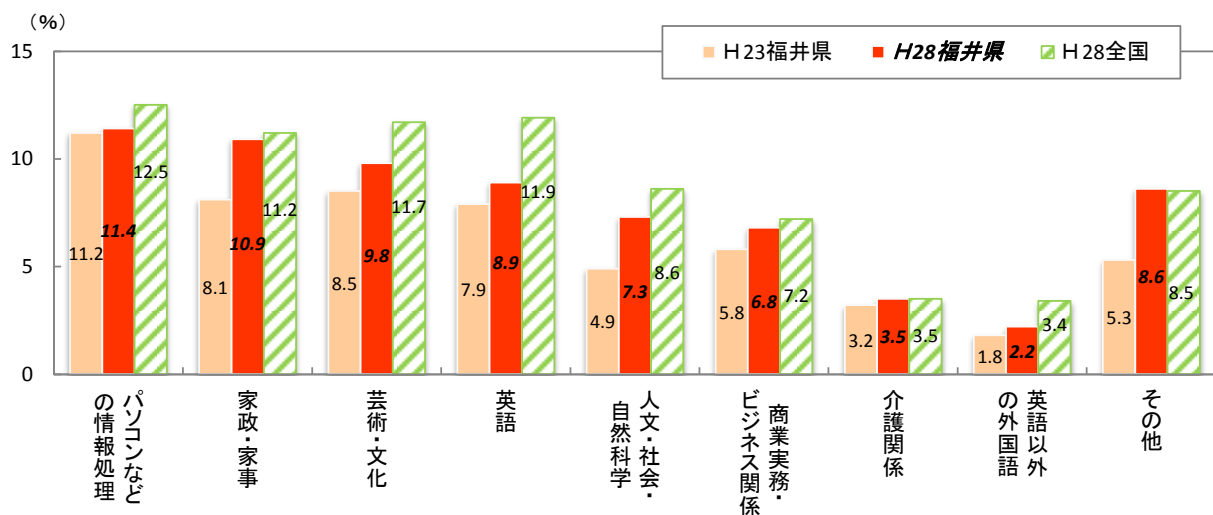
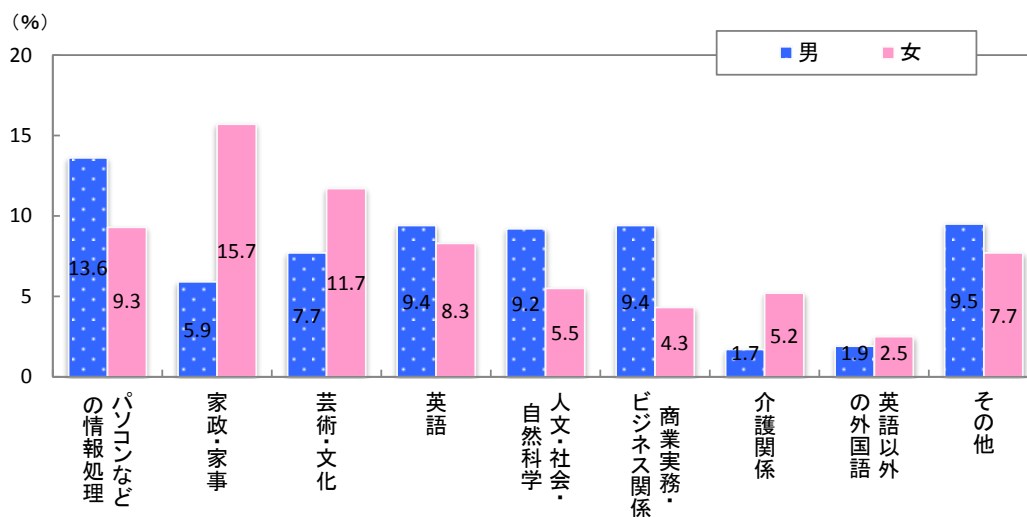


図6 「学習・自己啓発・訓練」の種類、男女別行動者率（平成28年）



行動者率が高い種類について年齢階級別にみると、「パソコンなどの情報処理」および「家政・家事」はともに、平成23年と比べて、45～54歳および75歳以上を除くすべての年齢階級において上昇している。特に「家政・家事」は、34歳以下のすべての年齢階級において5ポイント以上上昇している。〔図7〕

男女別にみると、「パソコンなどの情報処理」は25歳以上の男性の行動者率が女性より高く、「家政・家事」および「芸術・文化」はすべての年齢階級において女性の行動者率が男性より高くなっている。また、10～14歳においては、男女とも特に「英語」の行動者率が高く、30%を超えている。〔図8〕

図7 主な「学習・自己啓発・訓練」の種類、年齢階級別行動者率（平成23年、28年）

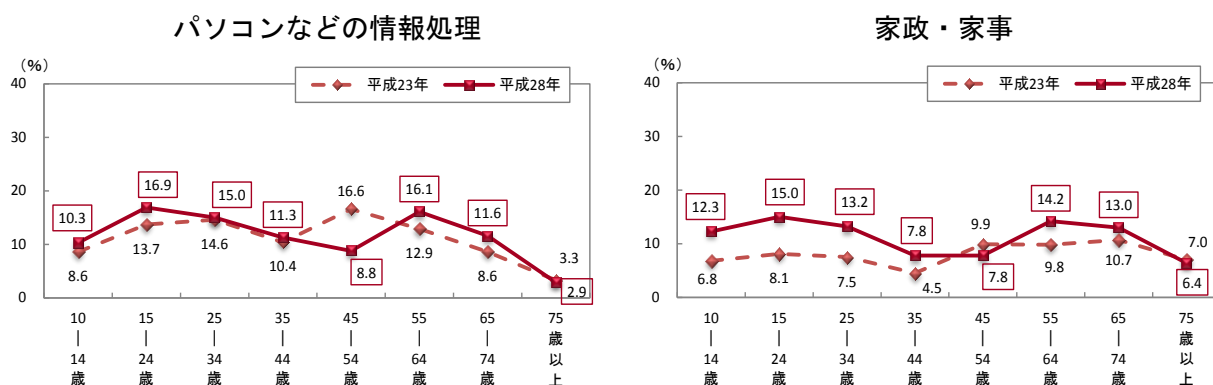
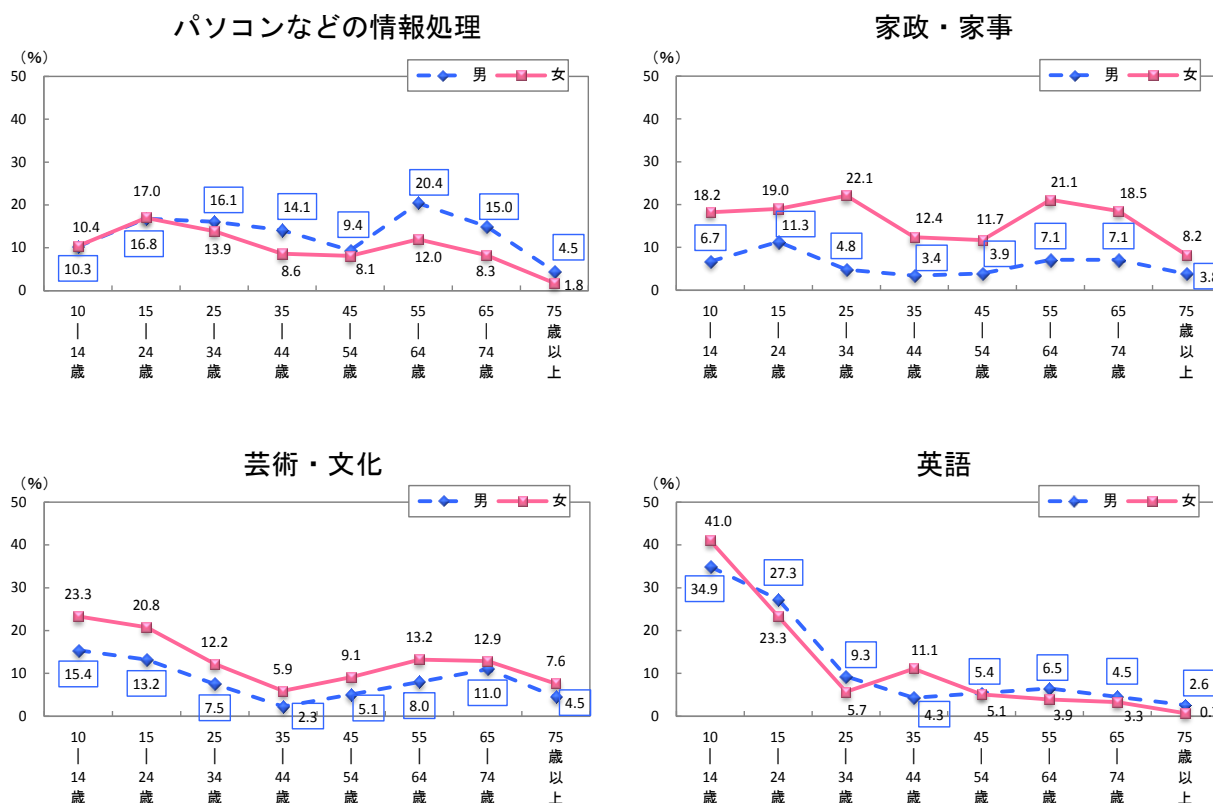


図8 主な「学習・自己啓発・訓練」の種類、男女、年齢階級別行動者率（平成28年）



2 ボランティア活動

- ・「ボランティア活動」の行動者率は 32.2%、5 年前より 0.9 ポイント上昇し全国第 9 位
- ・男性が 33.7%、女性が 30.9%と男性が女性より 2.8 ポイント高い

「ボランティア活動」の行動者数は 223 千人となり、行動者率は 32.2%となった。平成 23 年に比べ、行動者率は 0.9 ポイント上昇しており、全国と比較すると 6.2 ポイント高く、全国第 9 位となった（前回第 10 位から 1 ランク上昇）。〔図 9〕

行動者率を年齢階級別にみると、55～64 歳が 41.2%と最も高く、15～24 歳が 18.9%と最も低くなっており、15～24 歳のみが全国を下回っている。平成 23 年と比べると、15～24 歳および 45～54 歳を除くすべての年齢階級において上昇しており、特に 55～74 歳の行動者率が上昇している。〔図 10〕

図 9 「ボランティア活動」の行動者率の推移（平成 13 年～28 年）

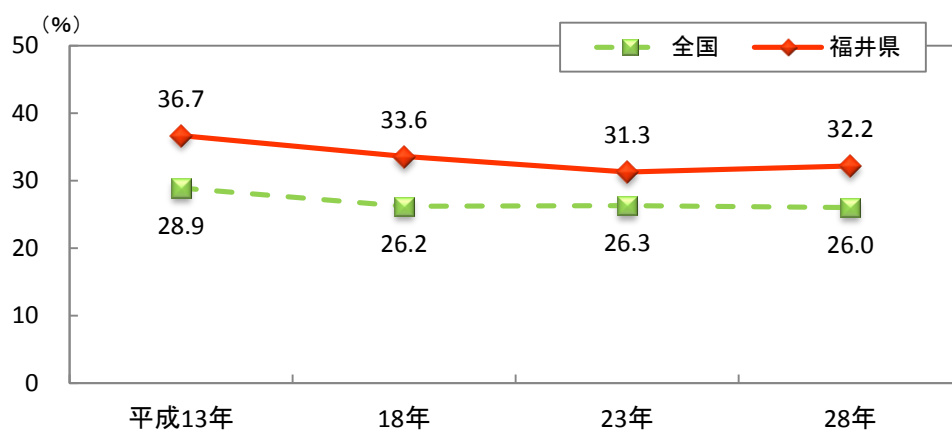
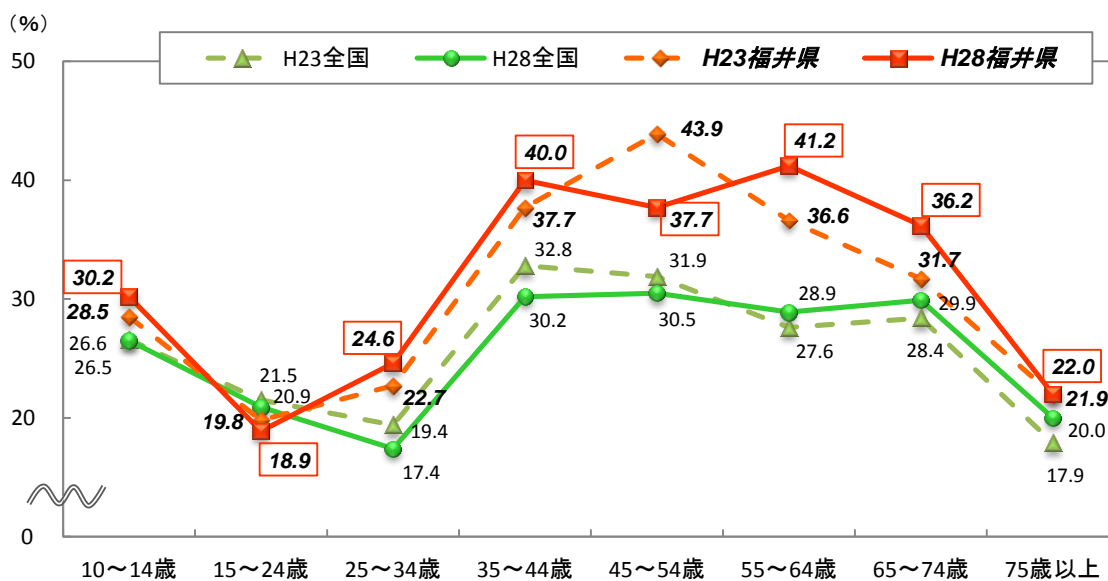


図 10 「ボランティア活動」の年齢階級別行動者率（平成 23 年、28 年）



男女別にみると、行動者数は男性が114千人、女性が110千人となり、行動者率は男性が33.7%、女性が30.9%となった。男性の行動者率が女性より2.8ポイント高くなっており、平成23年と比べると、男性は1.4ポイント上昇、女性は0.6ポイント上昇した。〔図11〕

行動者率を年齢階級別にみると、男女とも15～24歳が最も低く、男性は55～64歳、女性は35～44歳が最も高くなっている。また、45歳以上ではすべての年齢階級において男性のほうが高くなっている。〔図12〕

図11 「ボランティア活動」の男女別行動者率の推移（平成13年～28年）

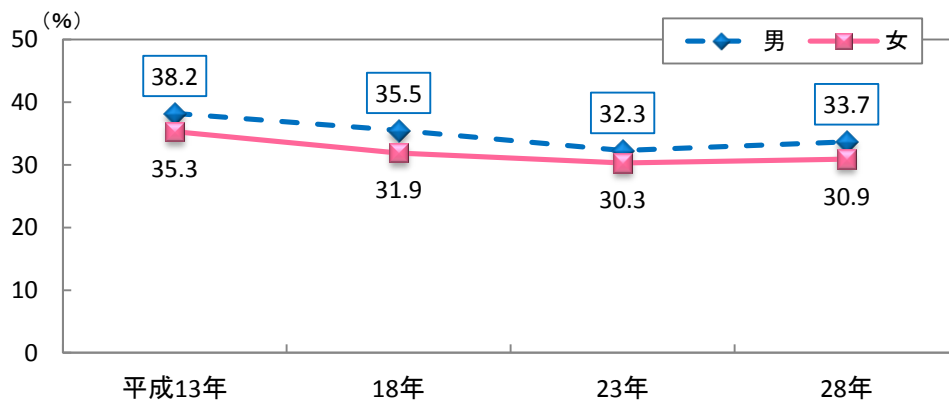
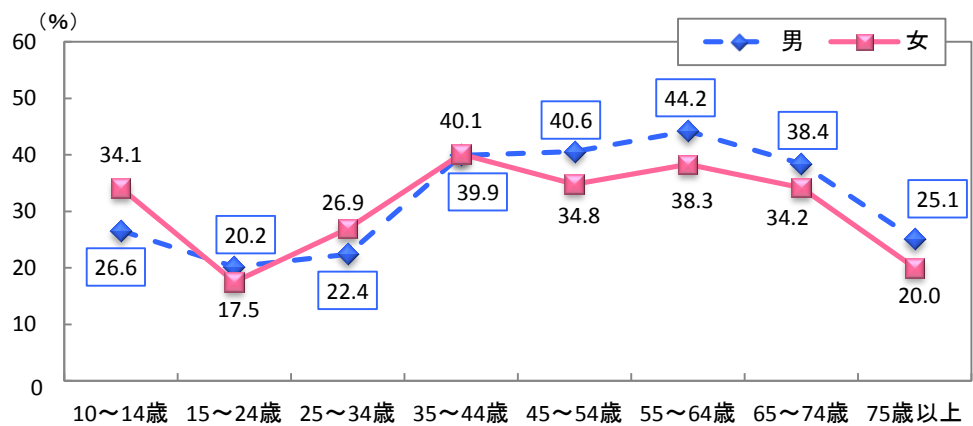


図12 「ボランティア活動」の男女、年齢階級別行動者率（平成28年）

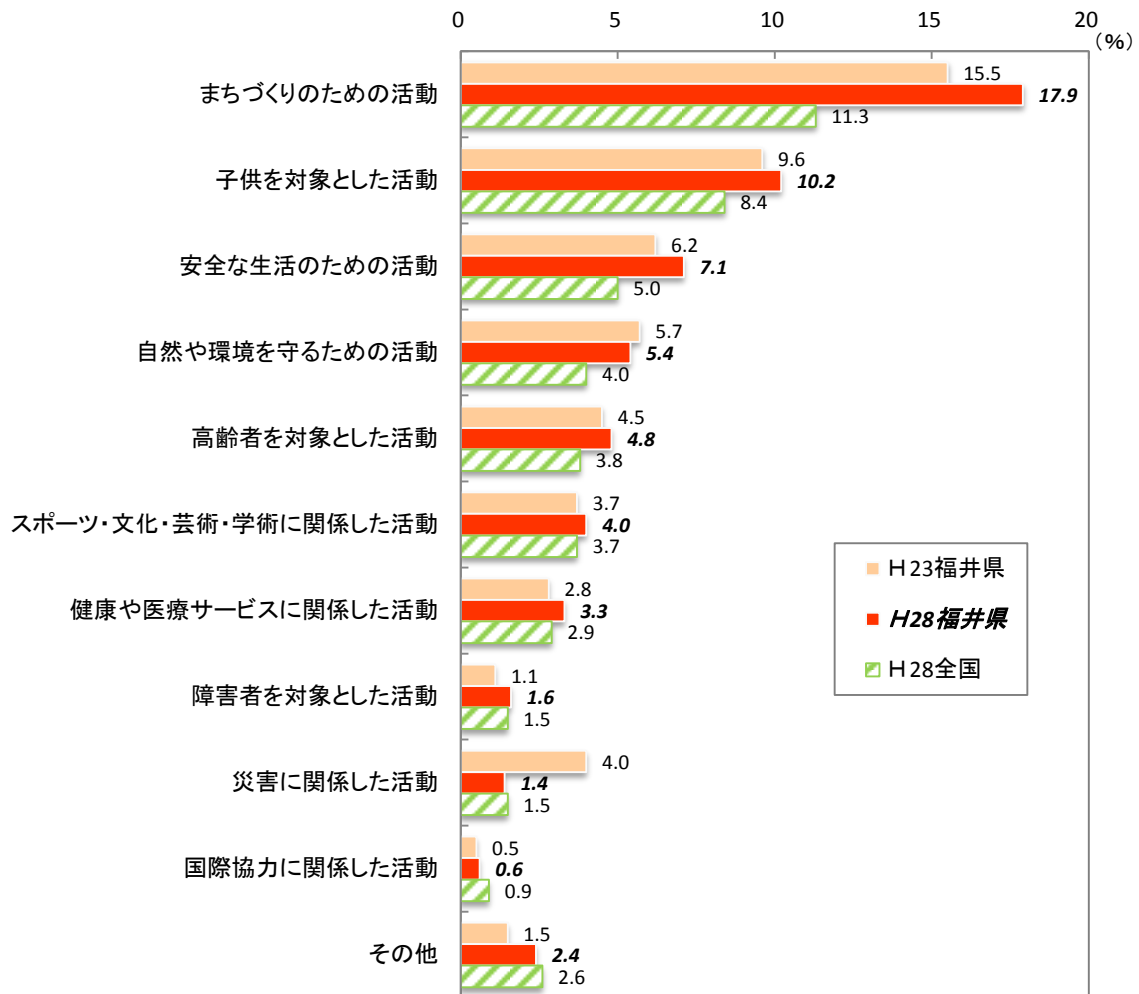


- ・「まちづくりのための活動」の行動者率が最も高く、全国第5位
- ・男性の「子供を対象とした活動」の行動者率が全国第4位

「ボランティア活動」の種類別行動者率をみると、「まちづくりのための活動」が17.9%と最も高く、次いで「子供を対象とした活動」が10.2%、「安全な生活のための活動」が7.1%などとなっている。これを平成23年と比べると、「まちづくりのための活動」が2.4ポイント上昇、「子供を対象とした活動」が0.6ポイント上昇などとなっている。一方、「自然や環境を守るための活動」が0.3ポイント低下、「災害に関係した活動」が2.6ポイント低下している。

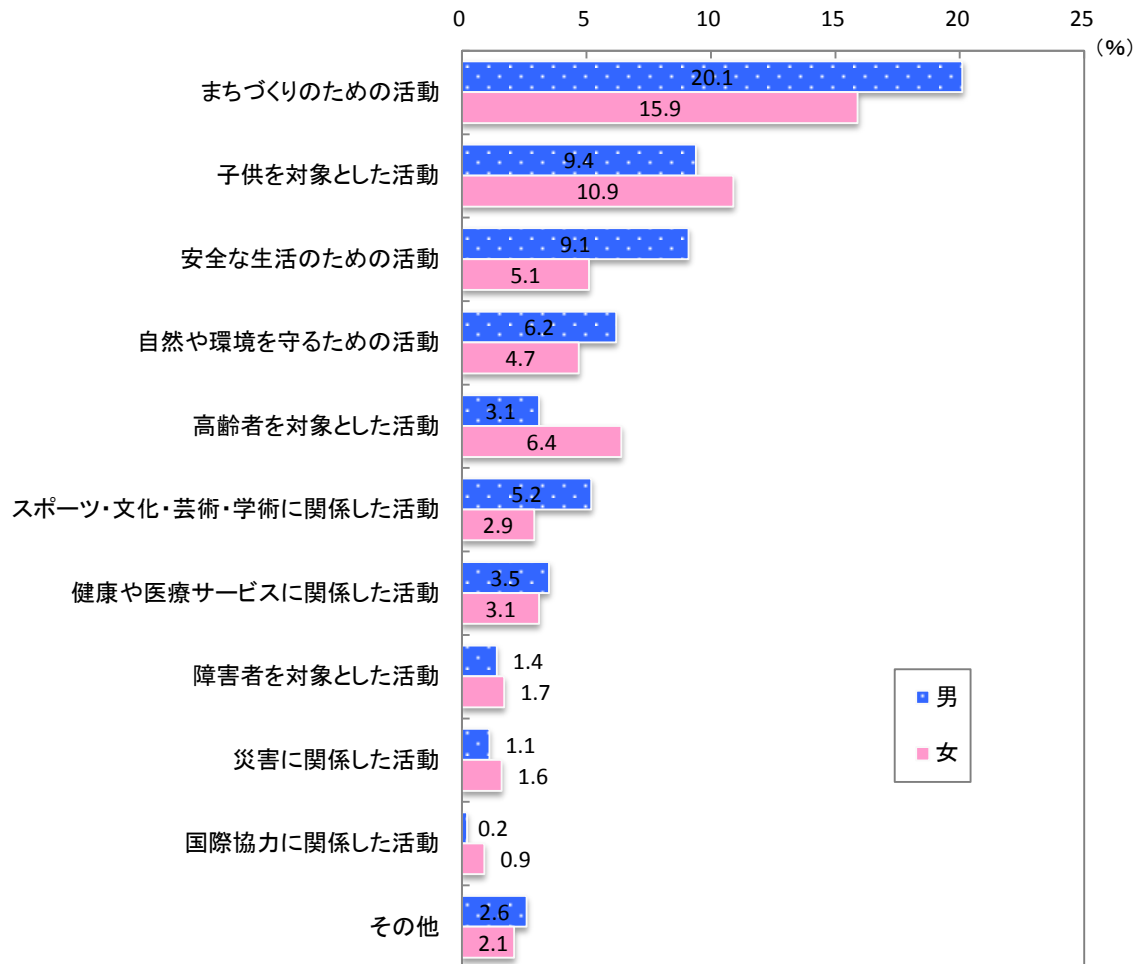
全国と比較すると、「災害に関係した活動」、「国際協力に関係した活動」および「その他」以外のすべての種類において全国を上回っている。特に「まちづくりのための活動」および「子供を対象とした活動」は、ともに全国第5位となった。〔図13〕

図13 「ボランティア活動」の種類別行動者率（平成23年、28年）



男女別にみると、男女とも「まちづくりのための活動」が最も高く、特に女性の行動者率が 15.9%（全国 10.4%）の全国第 5 位となった。また、男性の「子供を対象とした活動」の行動者率が 9.4%と全国（6.0%）に比べて高く、全国第 4 位となった。〔図 14〕

図 1 4 「ボランティア活動」の種類、男女別行動者率（平成 28 年）



- ・「まちづくりのための活動」を行う 75 歳以上の女性の行動者率が全国第 1 位
- ・「自然や環境を守るための活動」を行う 25～34 歳の女性の行動者率が全国第 1 位

行動者率が高い種類について年齢階級別にみると、「まちづくりのための活動」は、平成 23 年と比べて、45～54 歳および 75 歳以上を除くすべての年齢階級において上昇している。〔図 15〕

男女別にみると、「まちづくりのための活動」は、男女とも 15～24 歳が最も低く、男性は 55～64 歳、女性は 45～54 歳が最も高くなっており、すべての年齢階級において男性が女性より高くなっている。「子供を対象とした活動」は男女とも 35～44 歳が突出して高くなっており、44 歳以下では女性のほうが高いが、65 歳以上では男性のほうが高くなっている。〔図 16〕

全国と比較すると、「まちづくりのための活動」の 75 歳以上の女性の行動者率（14.4%、全国 8.5%）および「自然や環境を守るための活動」の 25～34 歳の女性の行動者率（5.6%、全国 1.8%）が全国第 1 位となった。

図 15 主な「ボランティア活動」の種類、年齢階級別行動者率（平成 23 年、28 年）

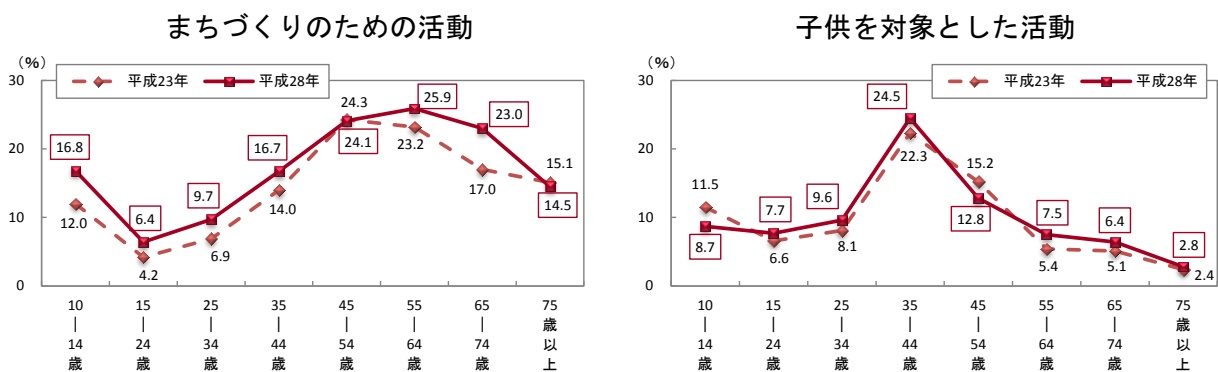
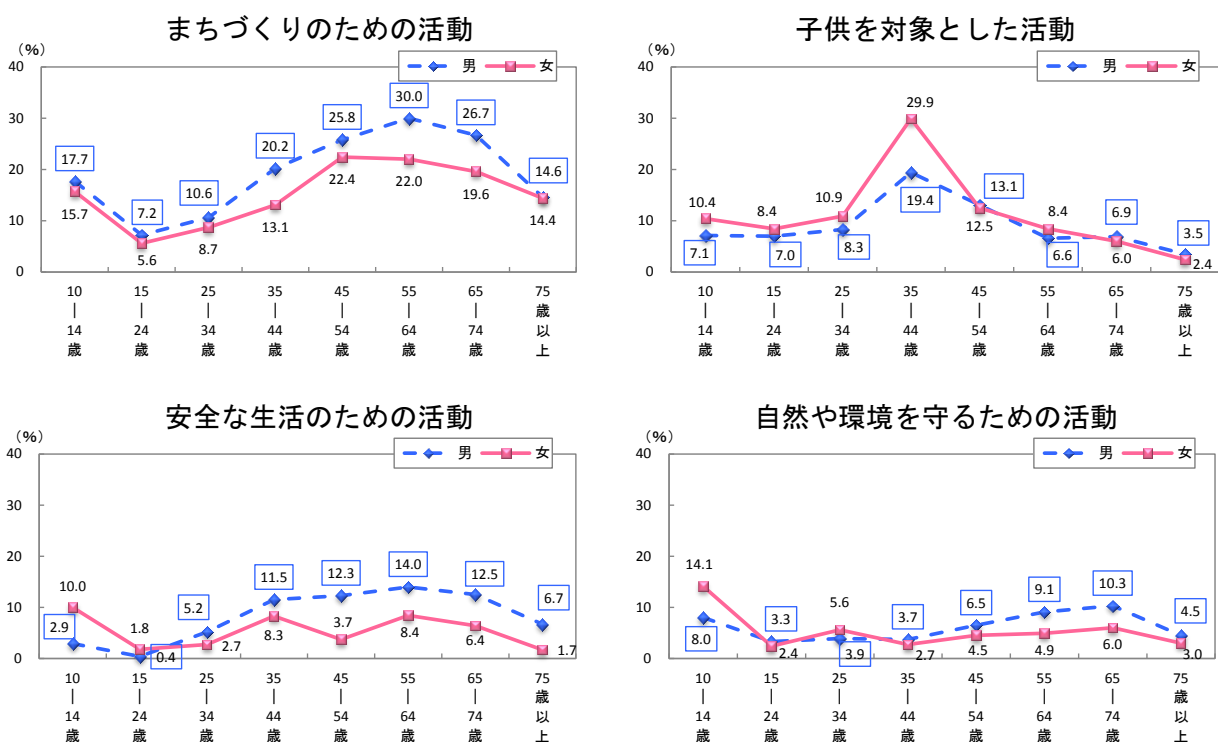


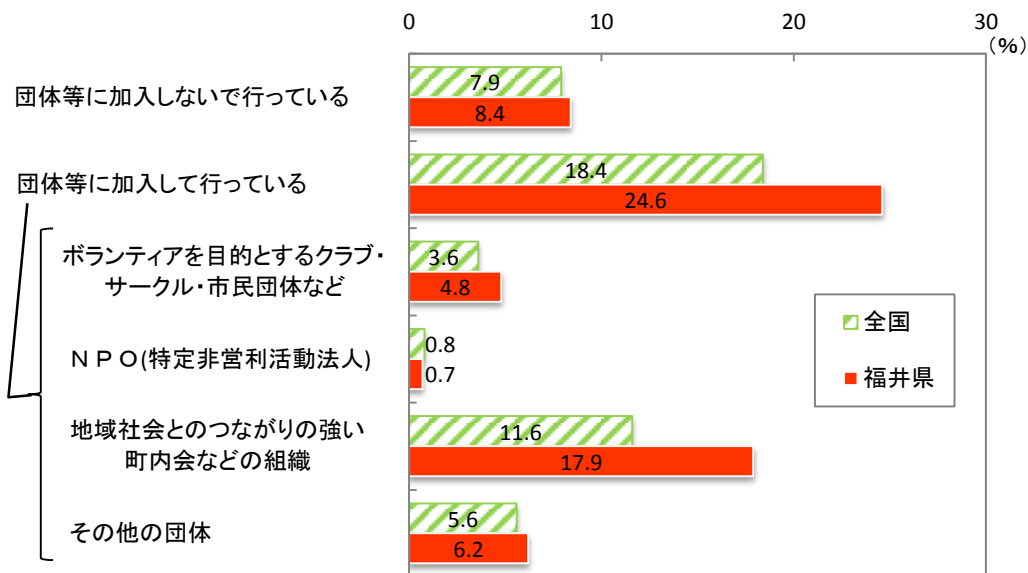
図 16 主な「ボランティア活動」の種類、男女、年齢階級別行動者率（平成 28 年）



・町内会やサークル・市民団体などの団体等に加入してボランティア活動を行っている人が多い

「ボランティア活動」の形態別に行動者率をみると、「団体等に加入して行っている」が、「加入しないで行っている」よりも高くなっている。「団体等に加入して行っている」について内訳をみると、行動者率は「地域社会とのつながりの強い町内会などの組織」に加入して行った活動が最も高く 17.9%となっている。全国と比較すると、「ボランティアを目的とするクラブ・サークル・市民団体など」が全国第3位となったほか、「地域社会とのつながりの強い町内会などの組織」は全国第4位となった。〔図 17〕

図 17 「ボランティア活動」の形態別行動者率（平成 28 年）



3 スポーツ

- ・「スポーツ」の行動者率は65.0%、5年前より7.6ポイント上昇
- ・男性が70.1%、女性が60.2%と男性が女性より9.9ポイント高い

「スポーツ」の行動者数は451千人となり、行動者率は65.0%となった。平成23年に比べ、行動者率は7.6ポイント上昇したものの、全国と比較すると3.8ポイント低く、全国第34位となった（前回第39位から5ランク上昇）。比較可能な平成8年以降、常に全国を下回っている。

〔図18〕

行動者率を年齢階級別にみると、平成23年に比べすべての年齢階級において同じか上昇しており、10～14歳が90.6%と最も高く、全国と同様に年齢が高くなるにつれて低下する傾向がみられる。また、全国と比較すると、34歳以下では全国を上回っているが、35歳以上になると全国を下回っており、特に45～54歳の行動者率が全国では2番目に低い。〔図19〕

図18 「スポーツ」の行動者率の推移（平成8年～28年）

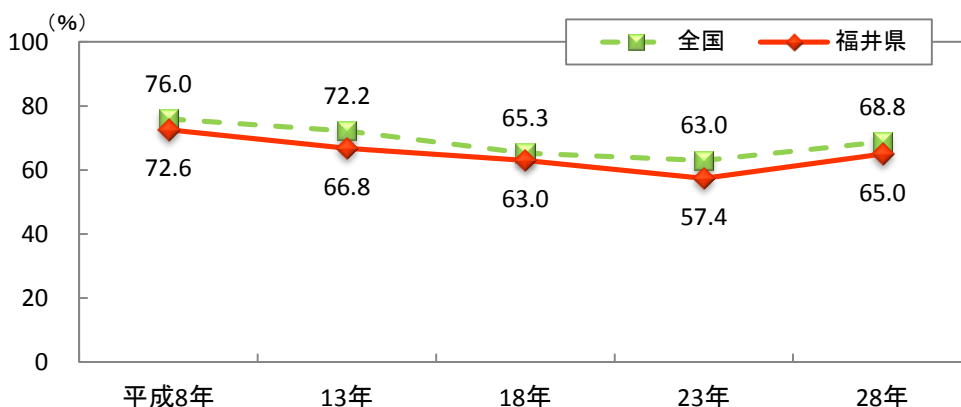
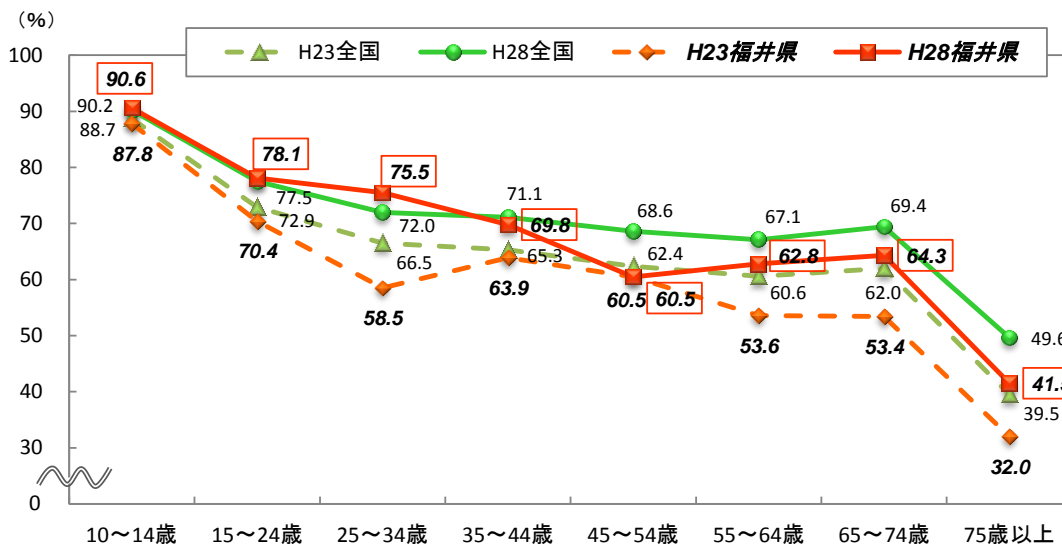


図19 「スポーツ」の年齢階級別行動者率（平成23年、28年）



男女別にみると、行動者数は男性が236千人、女性が214千人となり、行動者率は男性が70.1%、女性が60.2%となった。男性の行動者率が女性より9.9ポイント高くなっており、平成23年と比べると、男性は7.1ポイント上昇、女性は8.2ポイント上昇し、男女とも比較可能な平成8年以降、低下傾向にあったが上昇に転じた。〔図20〕

行動者率を年齢階級別にみると、25～34歳を除くすべての年齢階級において男性のほうが高くなっており、特に75歳以上においては15ポイント以上の差がある。〔図21〕

図20 「スポーツ」の男女別行動者率の推移（平成8年～28年）

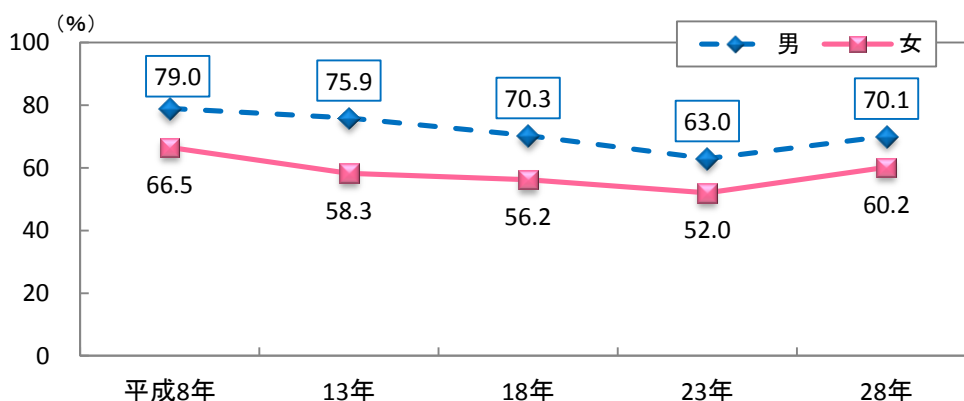
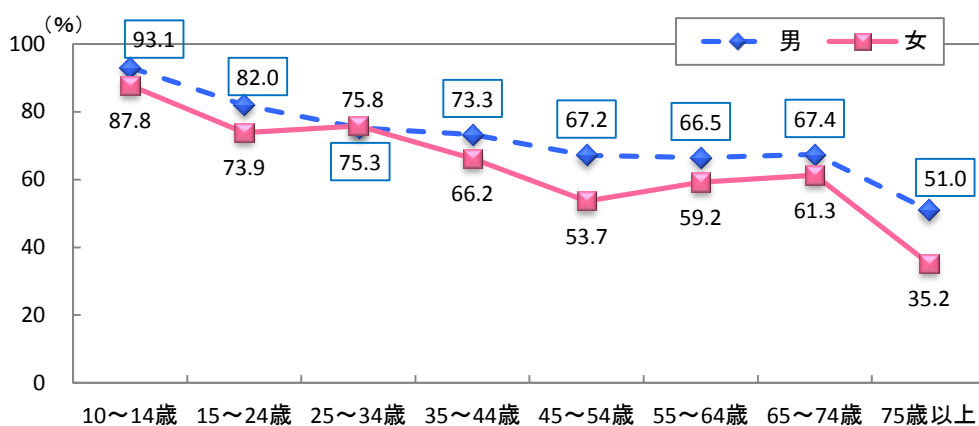


図21 「スポーツ」の男女、年齢階級別行動者率（平成28年）



- ・「ウォーキング・軽い体操」の行動者率が最も高い
- ・女性の「卓球」の行動者率が全国第3位

「スポーツ」の種類別に行動者率をみると、「ウォーキング・軽い体操」が34.2%と最も高く、次いで「器具を使ったトレーニング」が13.9%などとなっている。これを平成23年と比べると、「ウォーキング・軽い体操」が5.3ポイント上昇、「器具を使ったトレーニング」が4.5ポイント上昇などとなっている。一方、「ボウリング」が0.5ポイント低下、「スキー・スノーボード」が0.4ポイント低下などとなっている。〔図22-1〕

また、全国に比べ「ウォーキング・軽い体操」は7.1ポイント低く、全国では2番目に低い。〔図22-2〕

図22-1 「スポーツ」の種類別行動者率（平成23年、28年）

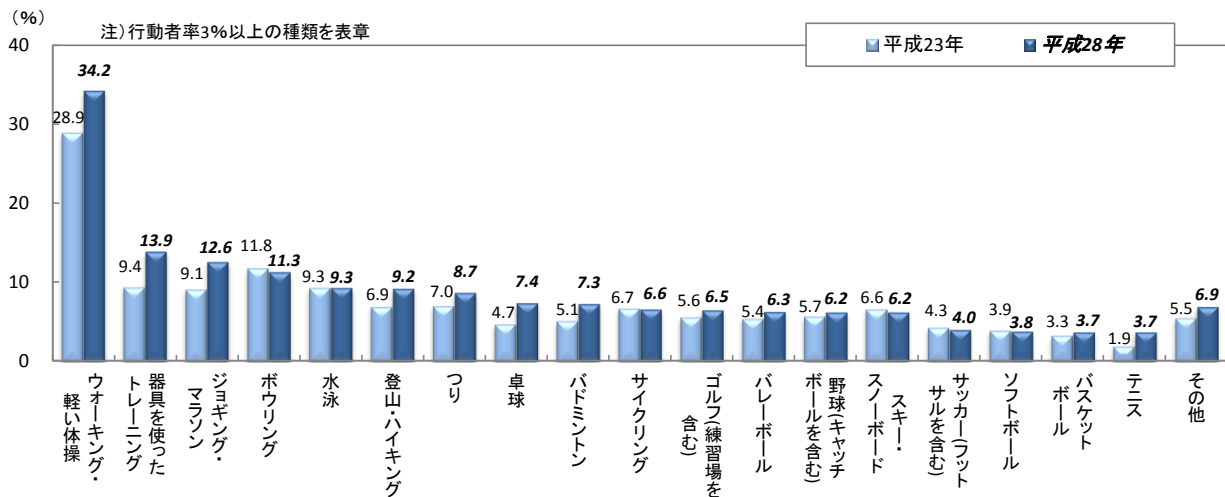
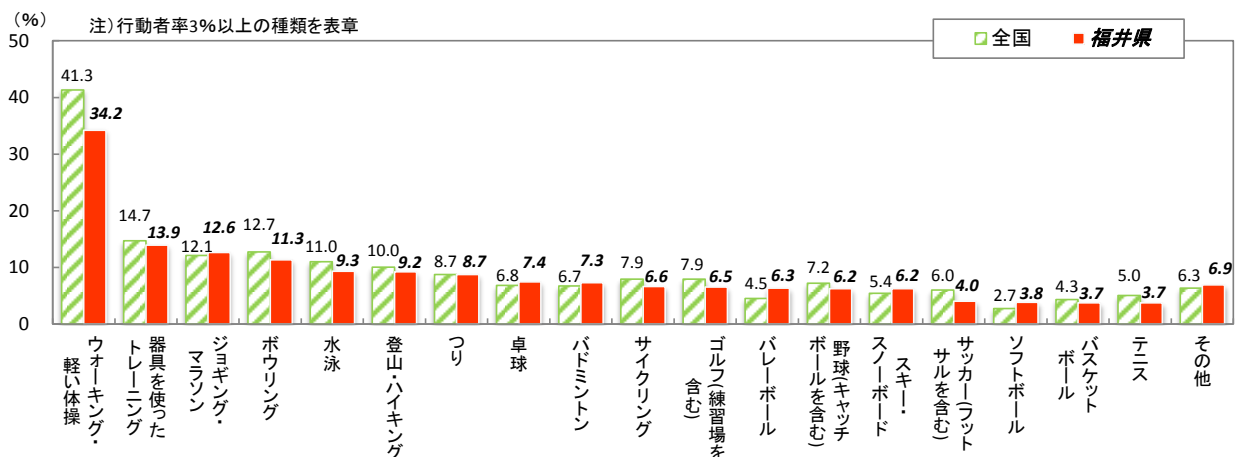
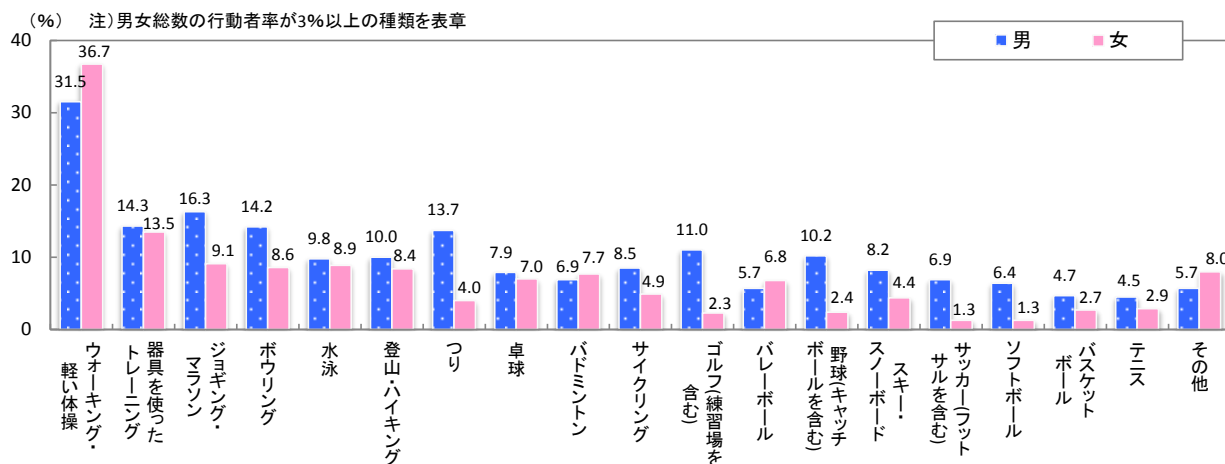


図22-2 「スポーツ」の種類別行動者率（平成28年）



男女別にみると、男女とも「ウォーキング・軽い体操」が最も高く、男性は31.5%、女性は36.7%となっている。次いで、男性は「ジョギング・マラソン」が16.3%、女性は「器具を使ったトレーニング」が13.5%などとなっている。多くのスポーツにおいて男性が女性を上回っているが、「ウォーキング・軽い体操」、「バドミントン」および「バレーボール」においては、女性の行動者率が男性を上回っている。また、女性の「卓球」の行動者率が7.0%と全国（6.0%）に比べて高く、全国第3位となっている。〔図23〕

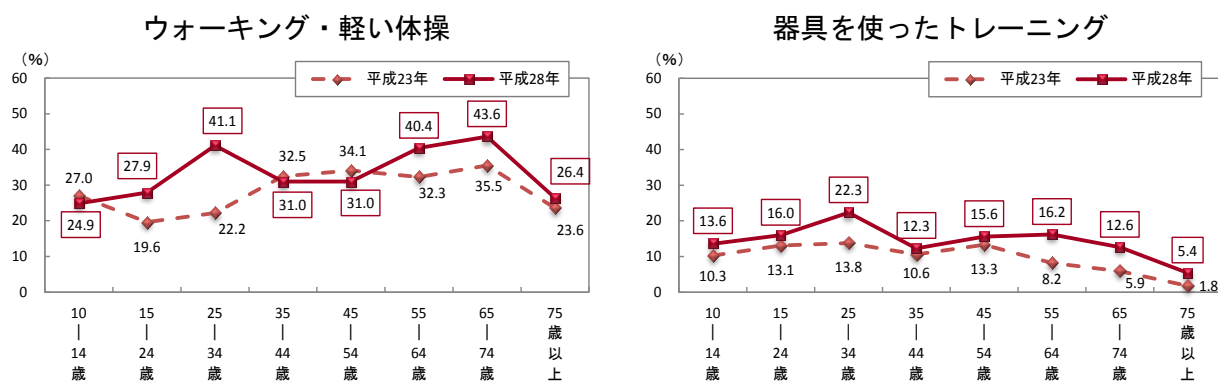
図23 「スポーツ」の種類、男女別行動者率（平成28年）



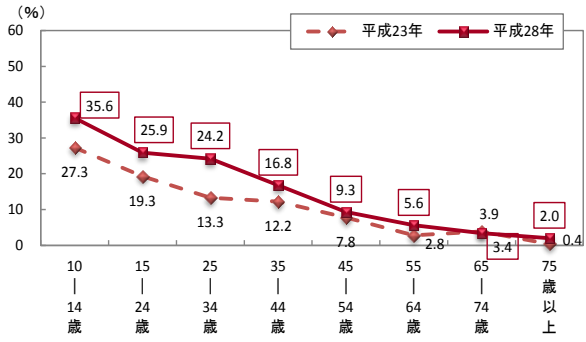
行動者率が上昇した主な「スポーツ」の種類について、年齢階級別の行動者率を平成23年と比べると、「ウォーキング・軽い体操」は15～34歳と55歳以上において上昇しており、「器具を使ったトレーニング」は幅広い年齢階級において上昇している。一方、「ジョギング・マラソン」や「卓球」は10歳代～30歳代を中心に行動者率が上昇している。〔図24〕

行動者率が高い種類について男女別にみると、「ジョギング・マラソン」はすべての年齢階級において男性の行動者率が女性を上回っている。一方、「ウォーキング・軽い体操」は74歳までは女性の行動者率のほうが高いが、75歳以上では男性が女性を上回っている。〔図25〕

図24 行動者率が上昇した主な「スポーツ」の種類、年齢階級別行動者率（平成23年、28年）



ジョギング・マラソン



卓球

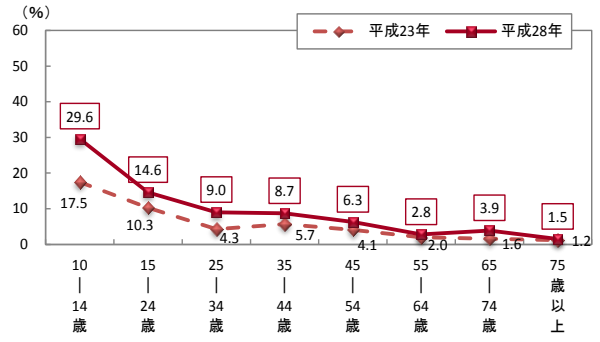
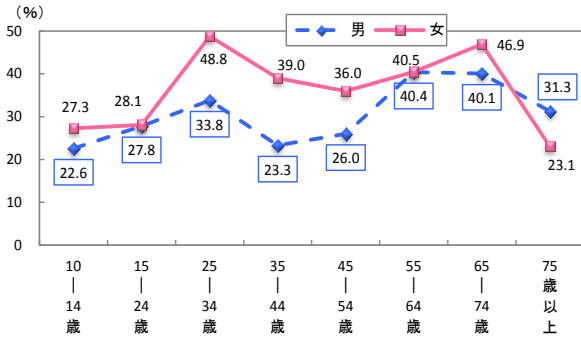
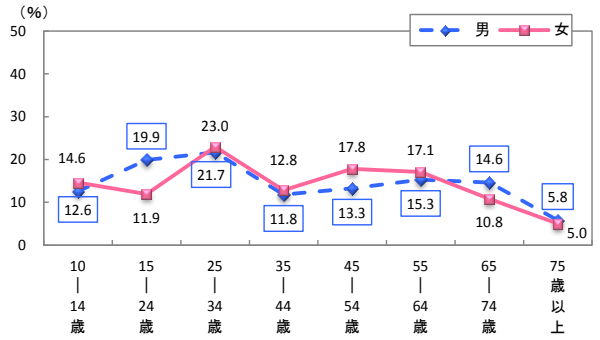


図 25 主な「スポーツ」の種類、男女、年齢階級別行動者率（平成 28 年）

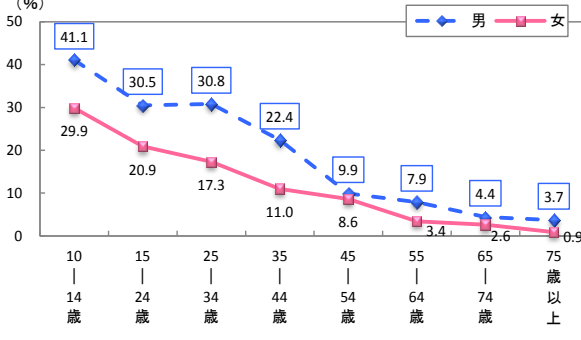
ウォーキング・軽い体操



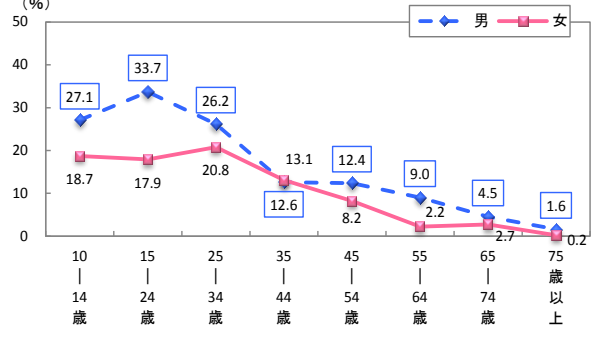
器具を使ったトレーニング



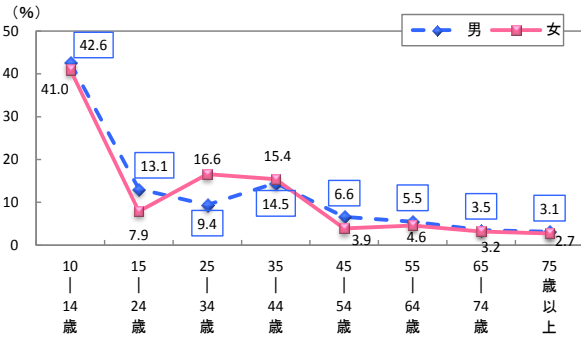
ジョギング・マラソン



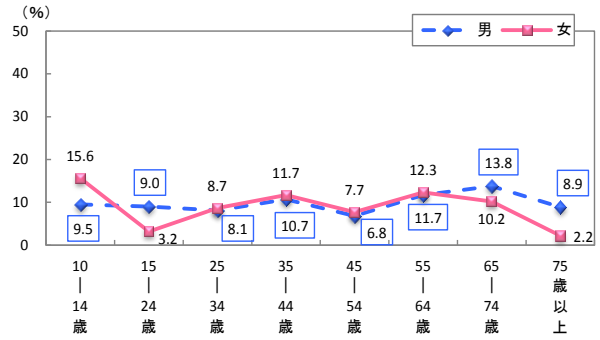
ボウリング



水泳



登山・ハイキング



- ・ 10 歳代前半は男女とも「水泳」の行動者率が最も高い
- ・ 15～24 歳の男性は「ボウリング」の行動者率が最も高い

年齢階級別に行動者率の高い種類をみると、25 歳以上のすべての年齢階級において、男女とも「ウォーキング・軽い体操」が最も高くなっている。一方、10～14 歳においては男女とも「水泳」が 4 割を超え最も高く、15～24 歳の男性は「ボウリング」が最も高くなっている。次いで、44 歳以下の年齢階級では「ジョギング・マラソン」が高く、45 歳以上では「器具を使ったトレーニング」が高い傾向にある。

また、40 歳代男性では「つり」、50 歳代男性では「ゴルフ」、60 歳代以上では男女ともに「登山・ハイキング」が上位になっている。〔表 1〕

表 1 「スポーツ」の年齢階級、男女別行動者率 上位 3 位（平成 28 年）

年齢階級		1 位		2 位		3 位	
			行動者率(%)		行動者率(%)		行動者率(%)
10～14歳	男	水泳	42.6	ジョギング・マラソン	41.1	卓球	35.8
	女		41.0	バドミントン	33.8	ジョギング・マラソン	29.9
15～24歳	男	ボウリング	33.7	ジョギング・マラソン	30.5	ウォーキング・軽い体操	27.8
	女	ウォーキング・軽い体操	28.1	ジョギング・マラソン	20.9	ボウリング	17.9
25～34歳	男	ウォーキング・軽い体操	33.8	ジョギング・マラソン	30.8	ボウリング	26.2
	女		48.8	器具を使ったトレーニング	23.0		20.8
35～44歳	男	ウォーキング・軽い体操	23.3	ジョギング・マラソン	22.4	つり	19.3
	女		39.0	水泳	15.4	ボウリング	13.1
45～54歳	男	ウォーキング・軽い体操	26.0	つり	15.9	ゴルフ	14.6
	女		36.0	器具を使ったトレーニング	17.8	ジョギング・マラソン	8.6
55～64歳	男	ウォーキング・軽い体操	40.4	器具を使ったトレーニング	15.3	ゴルフ	15.0
	女		40.5		17.1	登山・ハイキング	12.3
65～74歳	男	ウォーキング・軽い体操	40.1	器具を使ったトレーニング	14.6	登山・ハイキング	13.8
	女		46.9		10.8		10.2
75歳以上	男	ウォーキング・軽い体操	31.3	登山・ハイキング	8.9	ゲートボール	6.0
	女		23.1	器具を使ったトレーニング	5.0	水泳	2.7

※順位は「その他」を除く

4 趣味・娯楽

- ・「趣味・娯楽」の行動者率は85.4%、5年前より3.4ポイント上昇
- ・男性が86.5%、女性が84.4%と男性が女性より2.1ポイント高い

「趣味・娯楽」の行動者数は592千人となり、行動者率は85.4%となった。平成23年に比べ、行動者率は3.4ポイント上昇したものの、全国と比較すると1.6ポイント低く、全国第22位となった（前回第29位から7ランク上昇）。比較可能な平成8年以降、常に全国を下回っている。

〔図26〕

行動者率を年齢階級別にみると、10～14歳が96.1%と最も高く、全国と同様、年齢が高くなるにつれて低下する傾向がみられる。平成23年と比べると、45～54歳を除くすべての年齢階級において上昇しており、特に75歳以上においては10ポイント以上上昇している。〔図27〕

図26 「趣味・娯楽」の行動者率の推移（平成8年～28年）

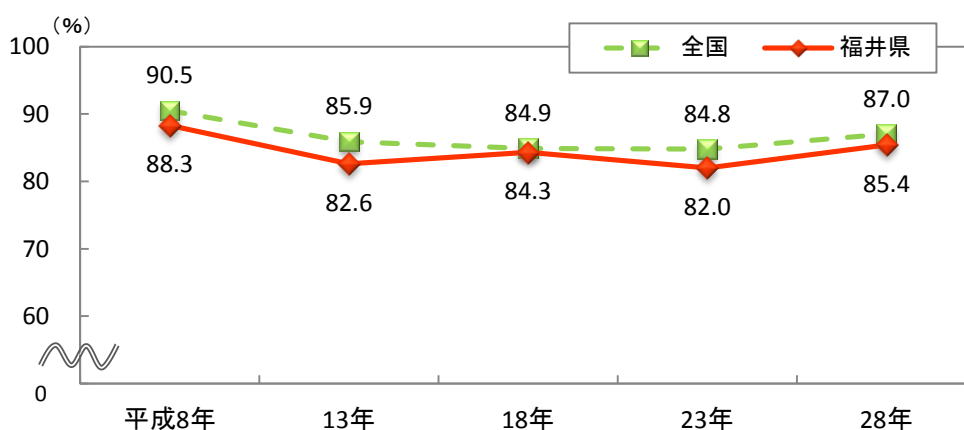
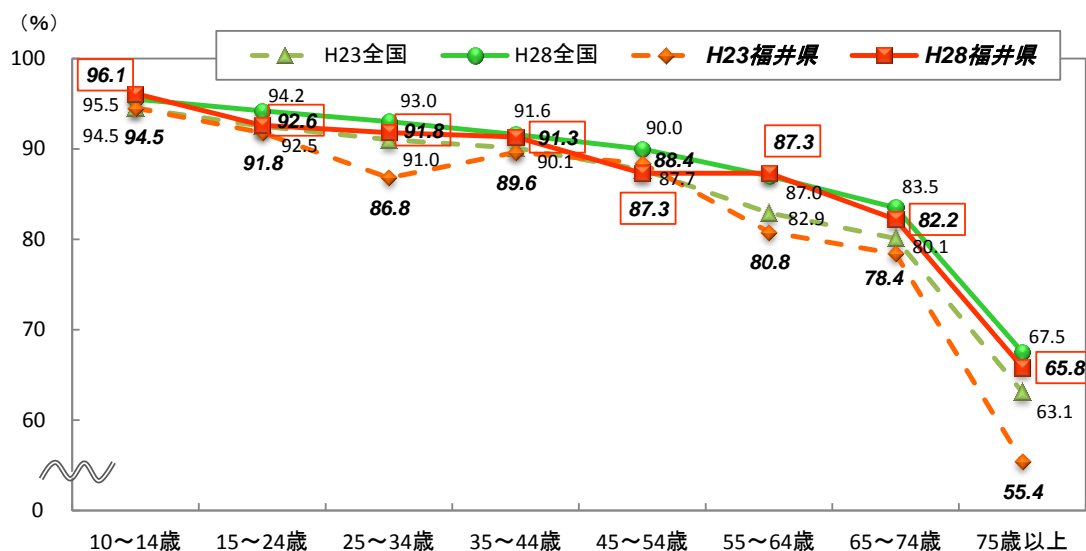


図27 「趣味・娯楽」の年齢階級別行動者率（平成23年、28年）



男女別にみると、行動者数は男性が 292 千人、女性が 300 千人となり、行動者率は男性が 86.5%、女性が 84.4%となった。男性の行動者率が女性より 2.1 ポイント高くなっており、平成 23 年と比べると、男性は 3.4 ポイント上昇、女性は 3.3 ポイント上昇した。〔図 28〕

行動者率を年齢階級別にみると、35～44 歳および 65 歳以上を除くすべての年齢階級において女性のほうが高くなっているが、75 歳以上においては男性が女性より 10 ポイント以上高くなっている。〔図 29〕

図 28 「趣味・娯楽」の男女別行動者率の推移（平成 8 年～28 年）

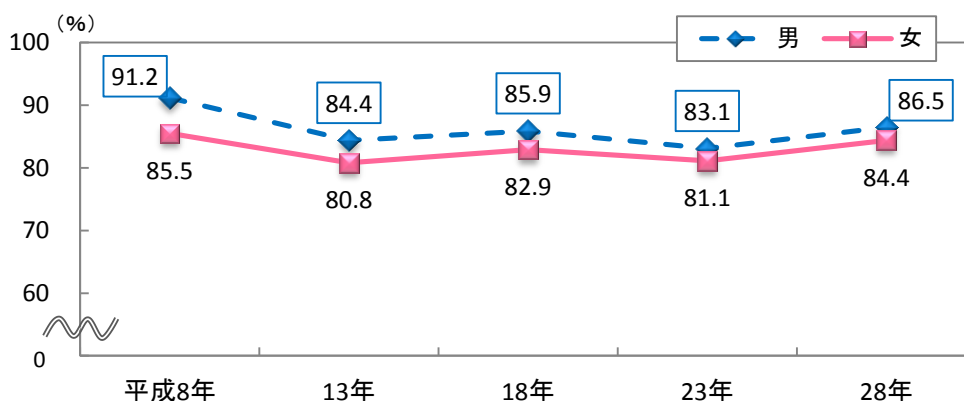
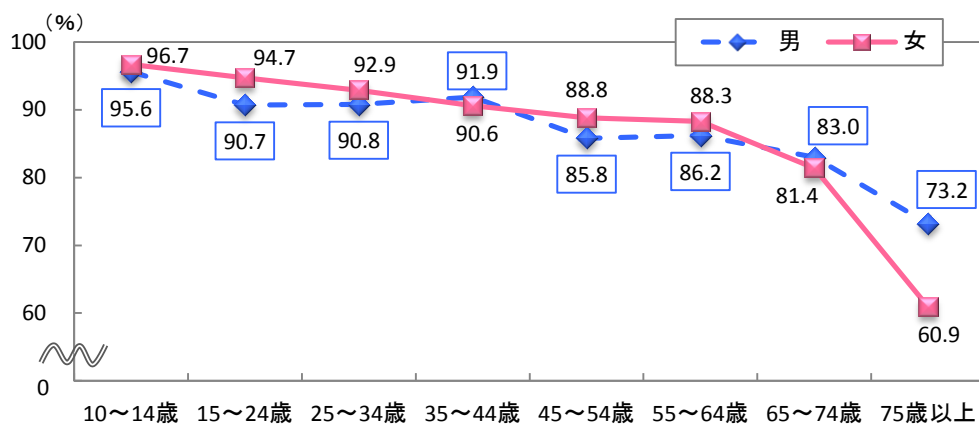


図 29 「趣味・娯楽」の男女、年齢階級別行動者率（平成 28 年）



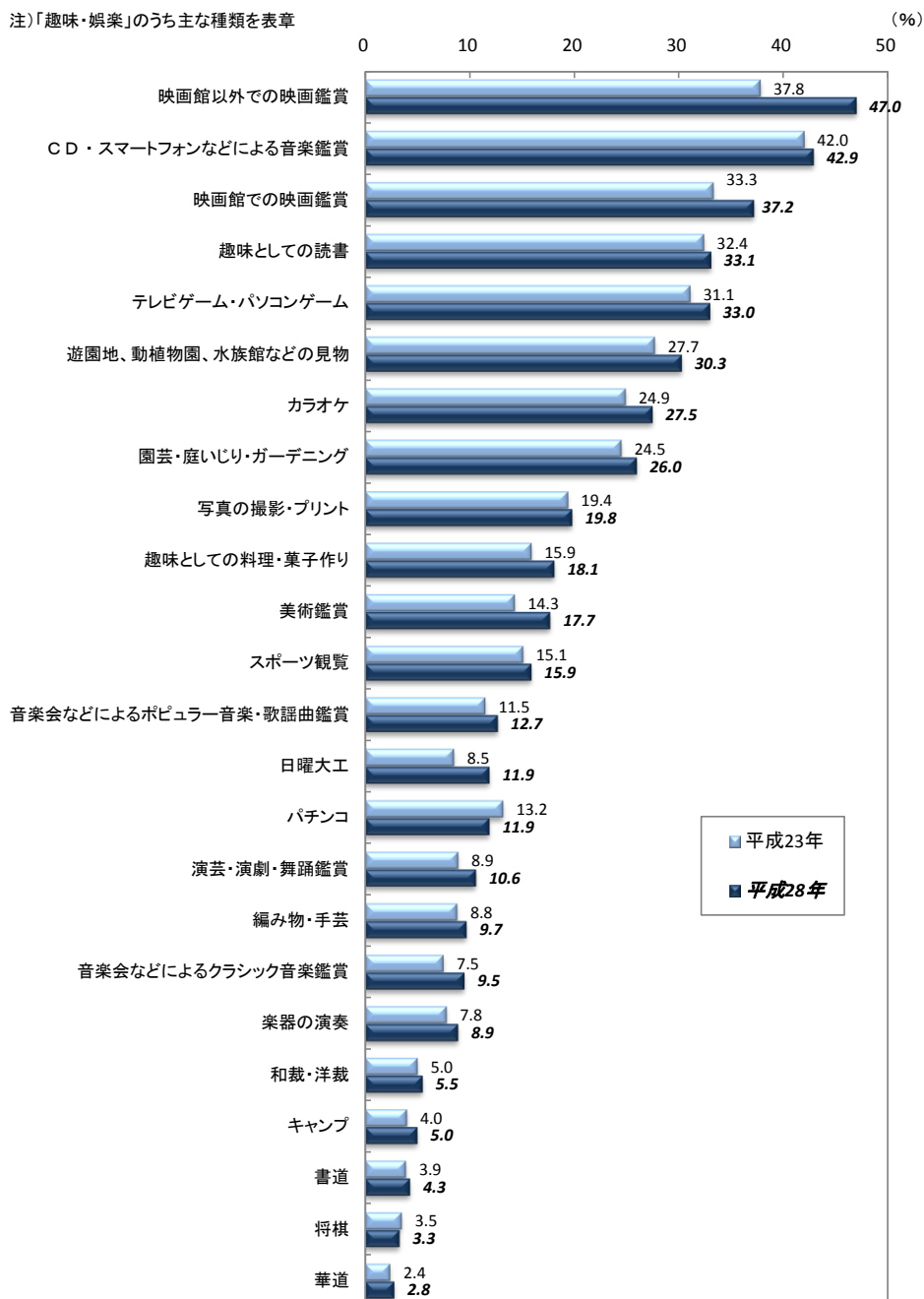
・「映画館以外での映画鑑賞」の行動者率が最も高い

「趣味・娯楽」の種類別に行動者率をみると、「映画館以外での映画鑑賞」が47.0%と最も高く、次いで「CD・スマートフォンなどによる音楽鑑賞」が42.9%、「映画館での映画鑑賞」が37.2%などとなっている。これを平成23年と比べると、「映画館以外での映画鑑賞」が9.2ポイント上昇、「映画館での映画鑑賞」が3.9ポイント上昇などとなっている。一方、「パチンコ」は平成23年より1.3ポイント低下した。〔図30-1〕

※映画館以外での映画鑑賞は、平成23年は「DVD・ビデオなどによる映画鑑賞（テレビからの録画は除く）」として調査、平成28年は「映画館以外での映画鑑賞（テレビ・DVD・パソコンなど）」として調査しており、定義の変更があるため比較には注意を要する。

図30-1 「趣味・娯楽」の種類別行動者率（平成23年、28年）

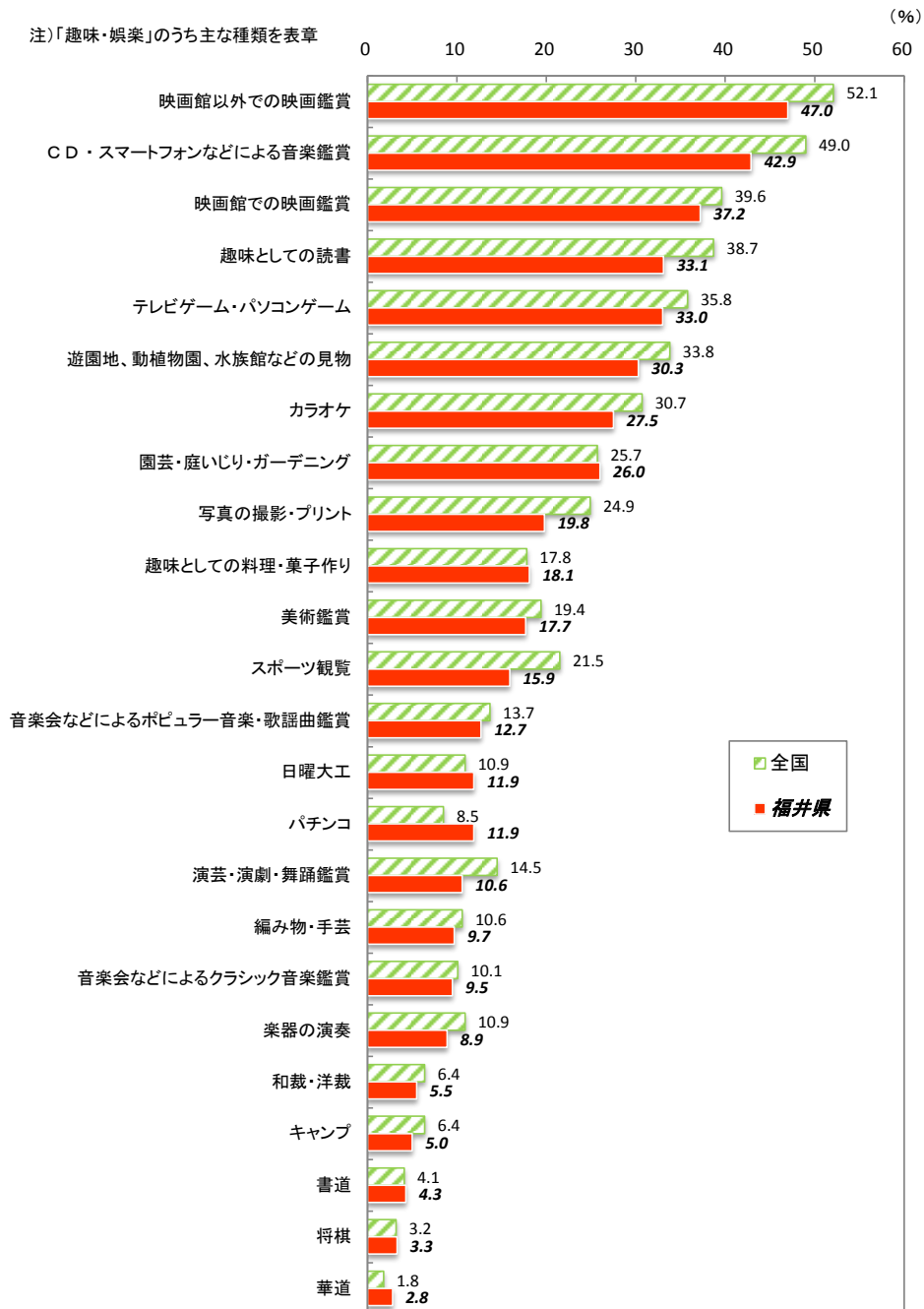
注)「趣味・娯楽」のうち主な種類を表章



・「華道」の行動者率が全国第1位

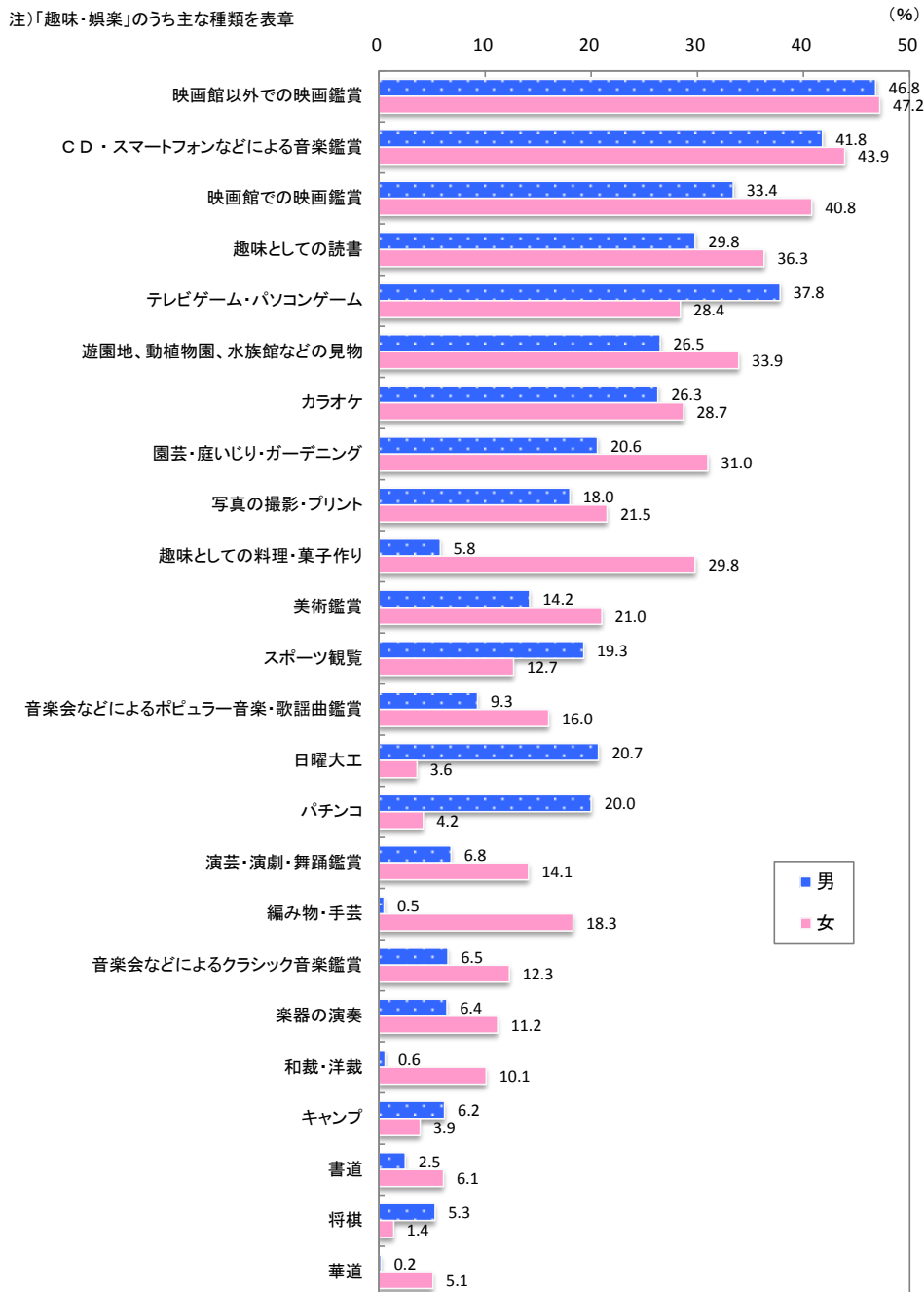
全国と比較すると、多くの種類において全国を下回っているが、「華道」が2.8%と全国（1.8%）に比べて高く、全国第1位となった。〔図30-2〕

図30-2 「趣味・娯楽」の種類別行動者率（平成28年）



男女別にみると、男女とも「映画館以外での映画鑑賞」が最も高く、男性は46.8%、女性は47.2%となっている。男女差の大きいものとして、「日曜大工」は男性が女性を17.1ポイント上回る20.7%となり、全国第8位となった。反対に「趣味としての料理・菓子作り」は女性が男性を24.0ポイント上回る29.8%となり、全国第6位となった。〔図31〕

図31 「趣味・娯楽」の種類、男女別行動者率（平成28年）



- ・ 10 歳代前半は「テレビゲーム・パソコンゲーム」の行動者率が最も高い
- ・ 65 歳以上は「園芸・庭いじり・ガーデニング」の行動者率が最も高い

行動者率が上昇した主な「趣味・娯楽」の種類について、年齢階級別の行動者率を平成 23 年と比べると、「映画館以外での映画鑑賞」は 55 歳以上において特に上昇している。一方、「映画館での映画鑑賞」は 34 歳以下において特に上昇している。〔図 32〕

行動者率が高い種類について男女別にみると、「映画館以外での映画鑑賞」、「CD・スマートフォンなどによる音楽鑑賞」および「趣味としての読書」はいずれにおいても、60 歳代前半までは女性の行動者率が男性を上回っているが、65 歳以上になると男性の行動者率が女性を上回る傾向がみられる。〔図 33〕

年齢階級別に最も行動者率が高い種類をみると、男女とも 10～14 歳は「テレビゲーム・パソコンゲーム」、15～24 歳になると「CD・スマートフォンなどによる音楽鑑賞」が高くなっている。また、65 歳以上では男女とも「園芸・庭いじり・ガーデニング」が最も高くなっている。〔図 33、表 2〕

図 3 2 行動者率が上昇した主な「趣味・娯楽」の種類、年齢階級別行動者率（平成 23 年、28 年）

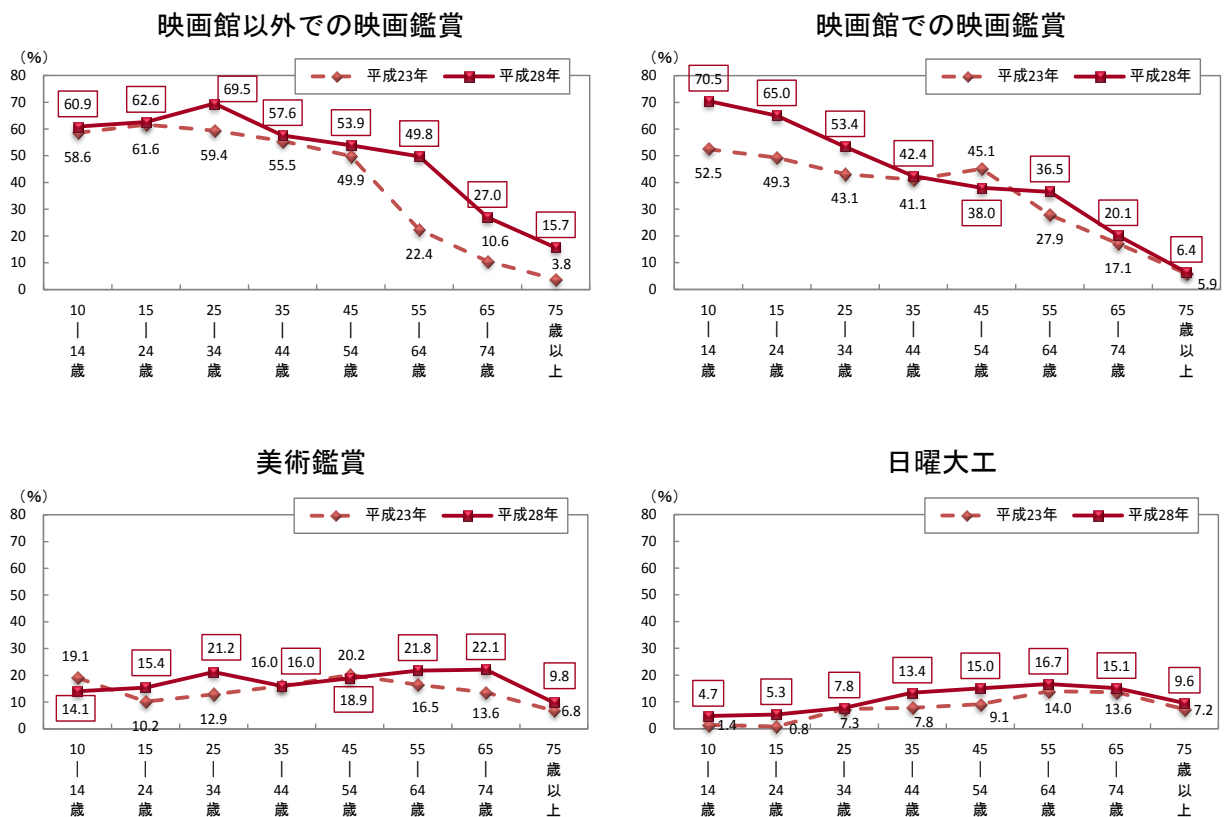


図 3 3 主な「趣味・娯楽」の種類、男女、年齢階級別行動者率（平成 28 年）

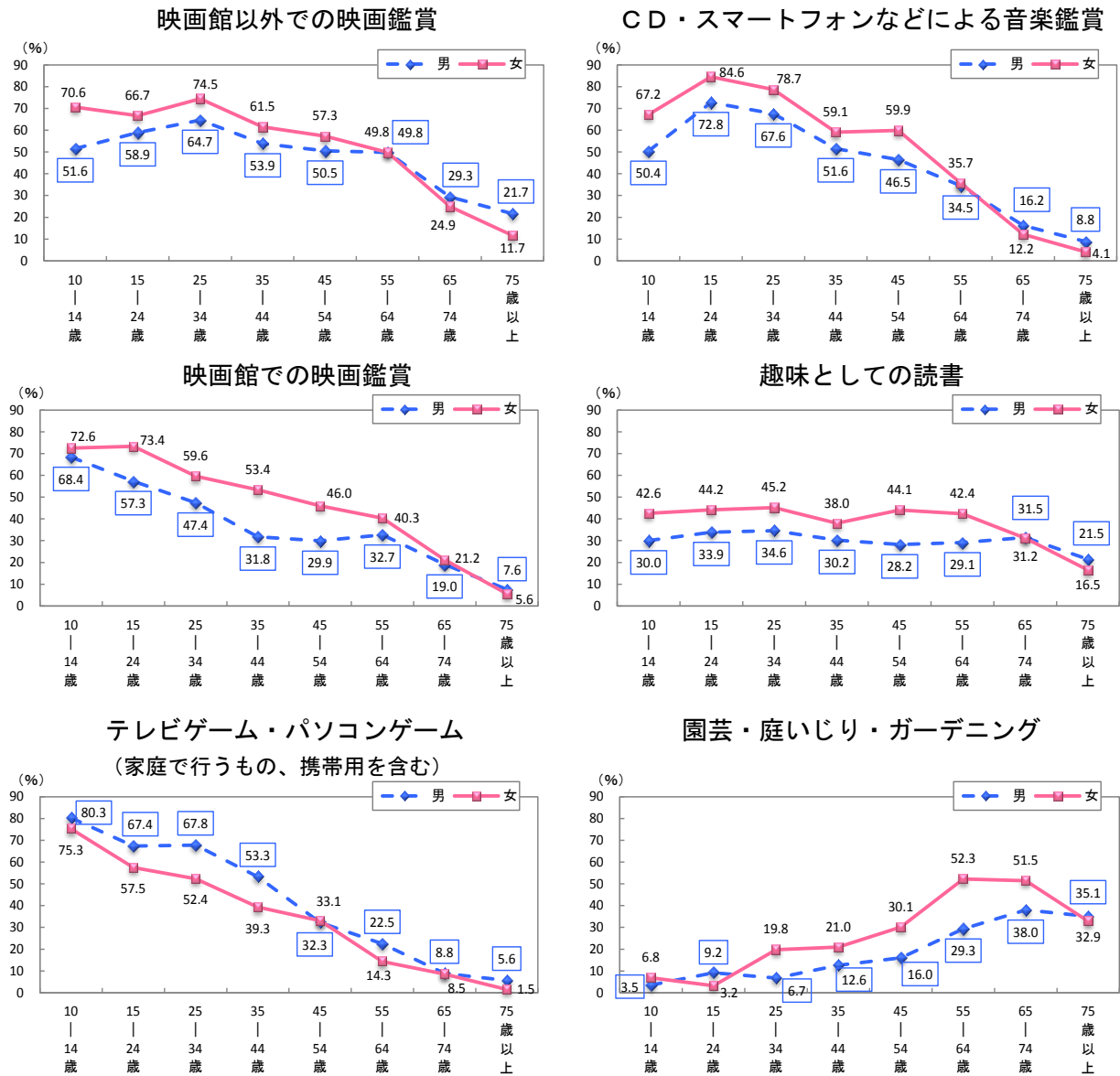


表 2 「趣味・娯楽」の年齢階級、男女別にみた最も行動者率が高い種類（平成 28 年）

年齢階級	男性		女性	
	種類	行動者率 (%)	種類	行動者率 (%)
10~14歳	テレビゲーム・パソコンゲーム (家庭で行うもの、携帯用を含む)	80.3	テレビゲーム・パソコンゲーム (家庭で行うもの、携帯用を含む)	75.3
15~24歳	CD・スマートフォンなどによる音楽鑑賞	72.8	CD・スマートフォンなどによる音楽鑑賞	84.6
25~34歳	テレビゲーム・パソコンゲーム (家庭で行うもの、携帯用を含む)	67.8	CD・スマートフォンなどによる音楽鑑賞	78.7
35~44歳	映画館以外での映画鑑賞 (テレビ・DVD・パソコンなど)	53.9	映画館以外での映画鑑賞 (テレビ・DVD・パソコンなど)	61.5
45~54歳	映画館以外での映画鑑賞 (テレビ・DVD・パソコンなど)	50.5	CD・スマートフォンなどによる音楽鑑賞	59.9
55~64歳	映画館以外での映画鑑賞 (テレビ・DVD・パソコンなど)	49.8	園芸・庭いじり・ガーデニング	52.3
65~74歳	園芸・庭いじり・ガーデニング	38.0	園芸・庭いじり・ガーデニング	51.5
75歳以上	園芸・庭いじり・ガーデニング	35.1	園芸・庭いじり・ガーデニング	32.9

5 旅行・行楽

- ・「旅行・行楽」の行動者率は73.6%、5年前より0.9ポイント低下
- ・男性が70.2%、女性が76.8%と女性が男性より6.6ポイント高い

「旅行・行楽」の行動者数は510千人となり、行動者率は73.6%となった。平成23年に比べ、行動者率は0.9ポイント低下しており、比較可能な平成8年以降低下が続いているが、全国と同程度で推移しており、全国より0.1ポイント高く、全国第16位となった（前回第12位から4ランク低下）。〔図34〕

行動者率を年齢階級別にみると、25～34歳が82.5%と最も高く、74歳以下では70～80%台であったものが、75歳以上になると51.6%まで低下している。これを平成23年と比べると、15～34歳は上昇しているが、10～14歳および35～54歳は大きく低下している。また、全国と比較すると、55歳以上において全国を上回っている。〔図35〕

※平成23年までは、「旅行・行楽」に「業務出張・研修・その他」を含めて調査しており、比較には注意を要する。

図34 「旅行・行楽」の行動者率の推移（平成8年～28年）

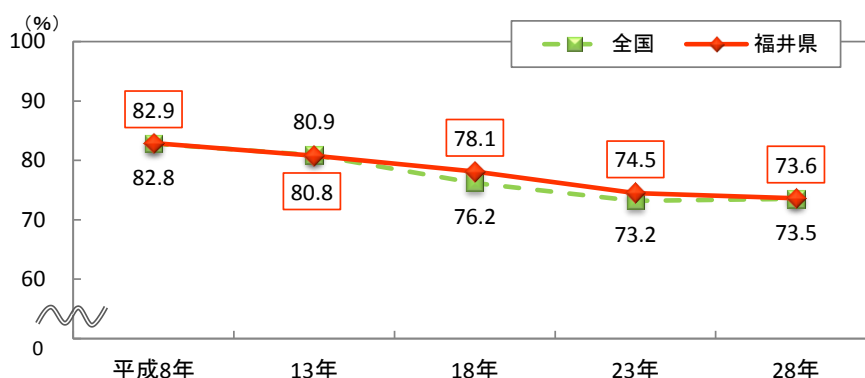
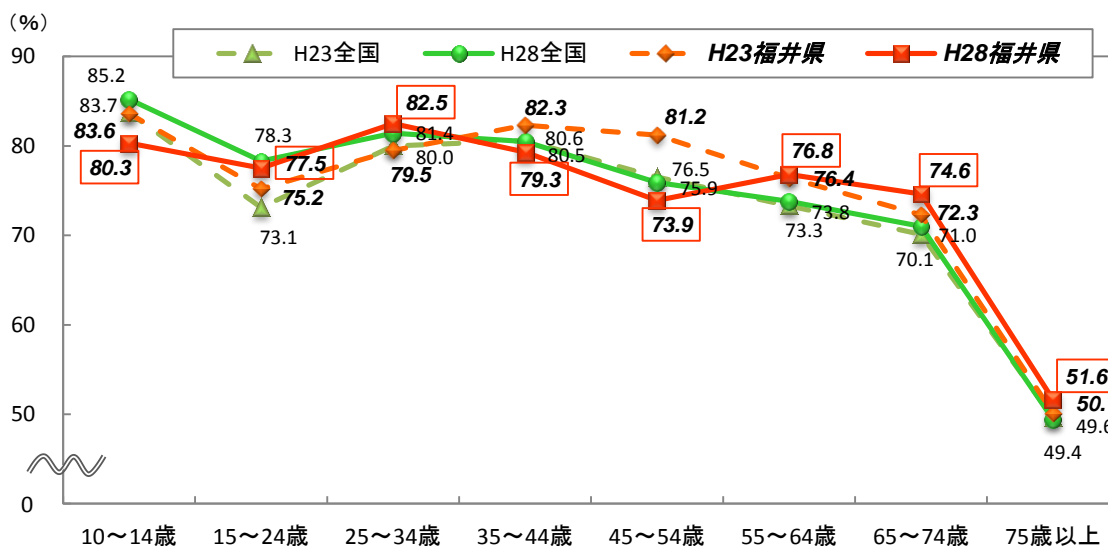


図35 「旅行・行楽」の年齢階級別行動者率（平成23年、28年）



男女別にみると、行動者数は男性が237千人、女性が273千人となり、行動者率は男性が70.2%、女性が76.8%となった。女性の行動者率が男性より6.6ポイント高くなっており、平成23年と比べると、男性は2.8ポイント低下し、女性は0.9ポイント上昇した。〔図36〕

行動者率を年齢階級別にみると、男性は10～14歳が83.5%と最も高い。一方、女性は25～34歳が91.6%と最も高く、全国第4位となっている。また、10～14歳を除くすべての年齢階級において女性のほうが高くなっている。〔図37〕

図36 「旅行・行楽」の男女別行動者率の推移（平成8年～28年）

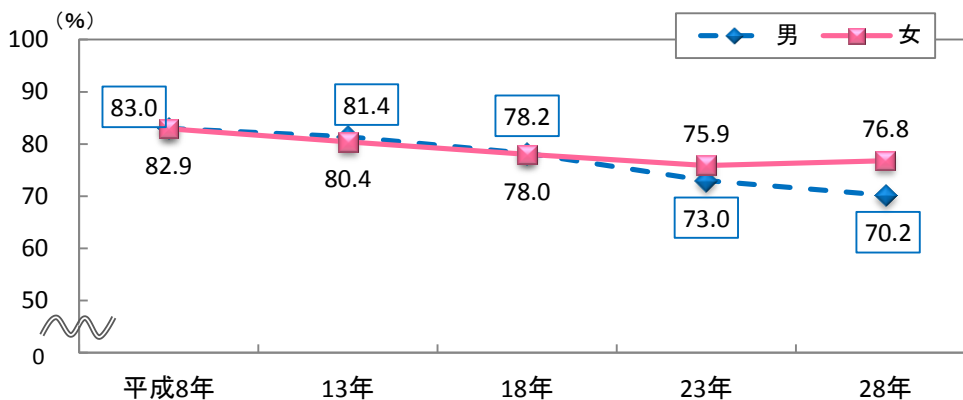
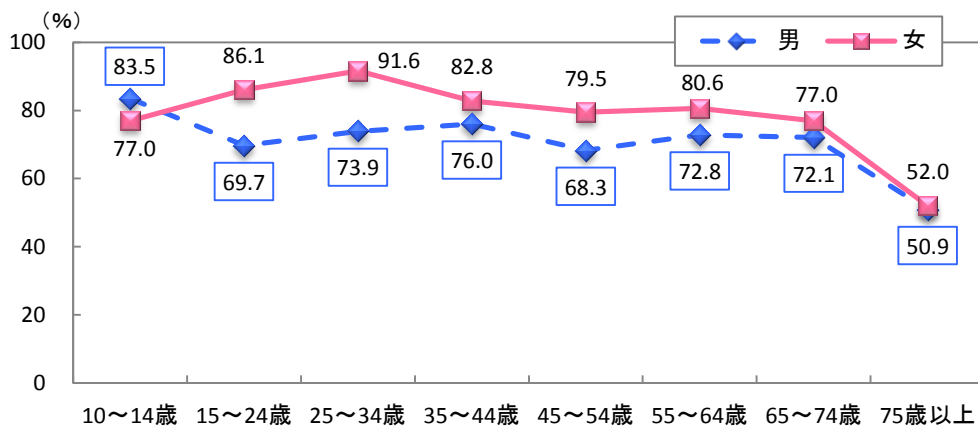


図37 「旅行・行楽」の男女、年齢階級別行動者率（平成28年）



・「行楽（日帰り）」の行動者率が最も高く、頻度は「年 10 回以上」が最も高い

「旅行・行楽」の種類別に行動者率をみると、「行楽（日帰り）」が 61.8%、宿泊を伴う観光旅行では国内が 49.0%、海外が 4.8%などとなっている。これを平成 23 年と比べると、「観光旅行（国内）」が 4.1 ポイント上昇、「行楽（日帰り）」が 0.2 ポイント上昇し、「観光旅行（海外）」は 0.2 ポイント低下している。〔図 38〕

男女別にみると、すべての種類において女性のほうが高くなっており、「行楽（日帰り）」では男性 58.1%に対し女性が 65.3%と、女性のほうが 7.2 ポイント高い。〔図 39〕

図 3 8 「旅行・行楽」の種類別行動者率（平成 23 年、28 年）

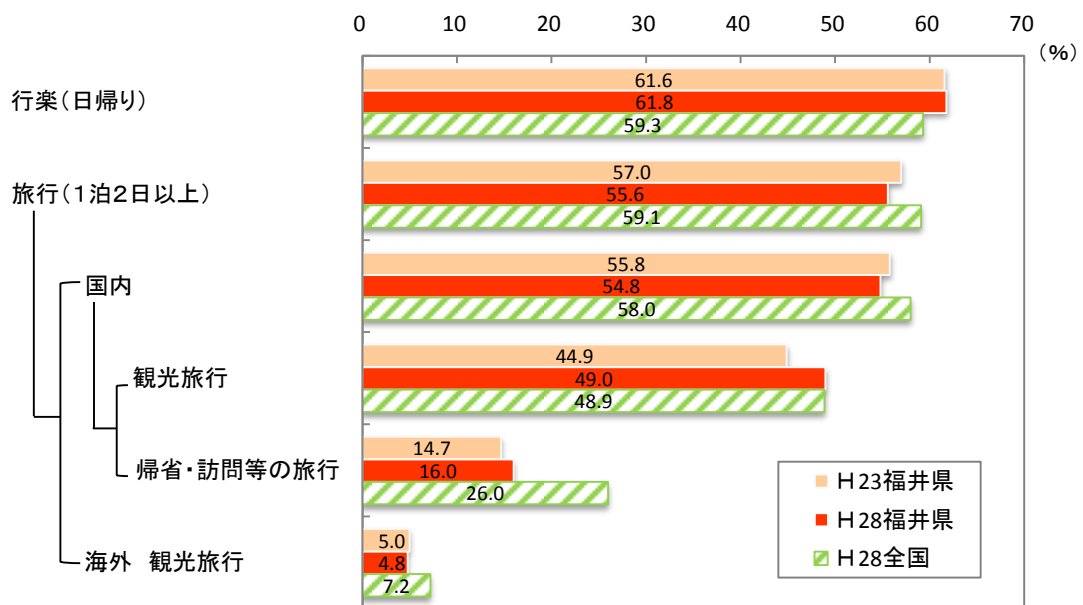
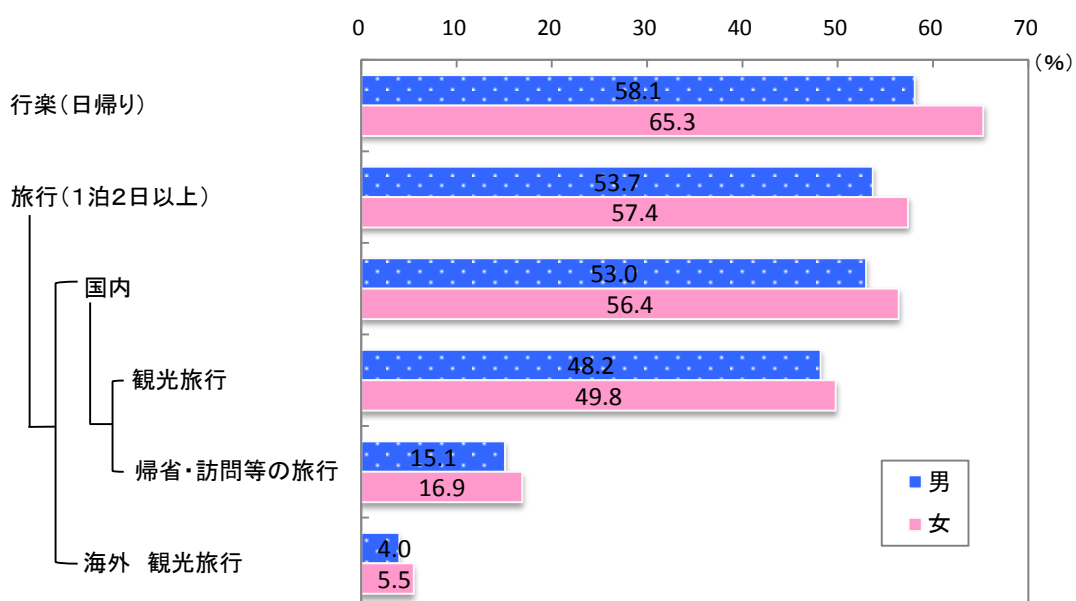


図 3 9 「旅行・行楽」の種類、男女別行動者率（平成 28 年）



「観光旅行（国内）」の行動者率を男女別にみると、男性は 10～14 歳が最も高く、女性は 25～34 歳が最も高くなっている。平成 23 年と比べると、男女とも 44 歳以下が大幅に上昇しており、特に女性は 30 歳代を中心に上昇している。〔図 40〕

「旅行・行楽」の種類ごとにその頻度をみると、「行楽（日帰り）」は「年に 10 回以上」が 15.9% と最も高く、「観光旅行（国内）」は「年に 1 回」が 18.5% と最も高くなっている。〔図 41〕

図 40 「観光旅行（国内）」の男女、年齢階級別行動者率（平成 23 年、28 年）

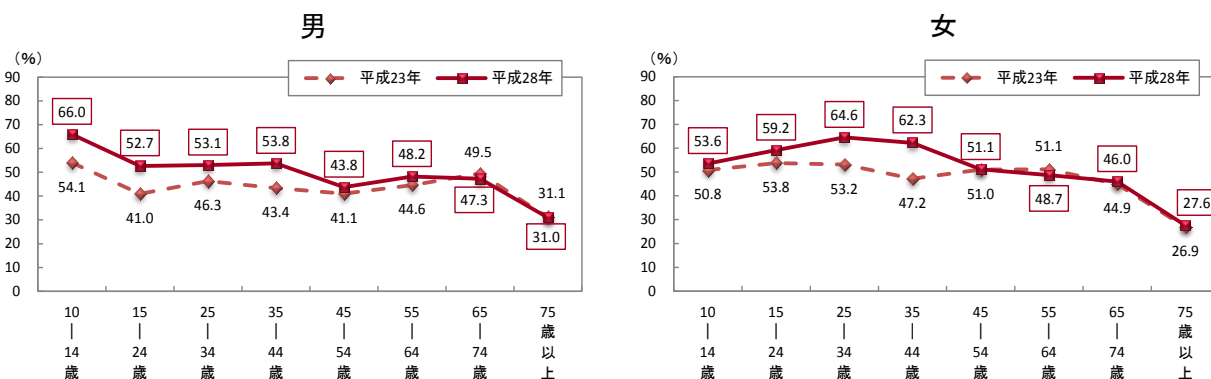
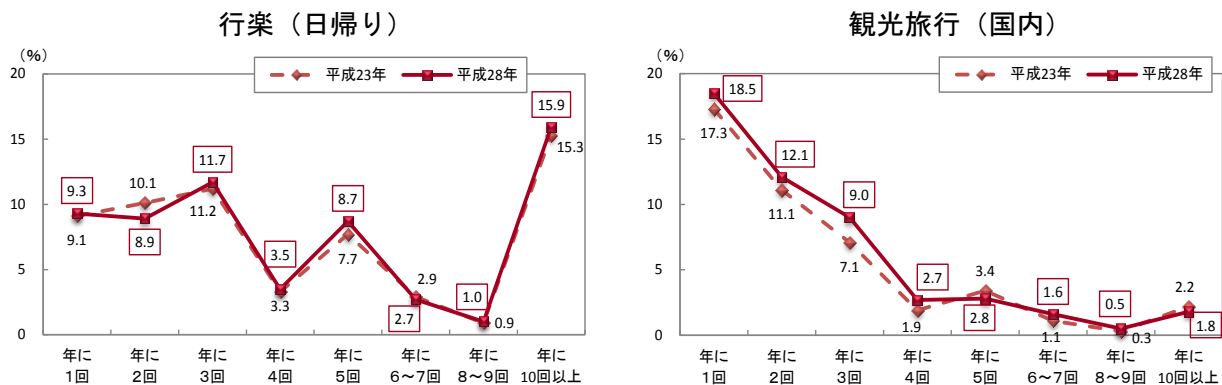


図 4 1 「旅行・行楽」の種類、頻度別行動者率（平成 23 年、28 年）



平成 28 年社会生活基本調査の概要

1 調査の目的

社会生活基本調査は、国民の生活時間の配分および自由時間における主な活動（「学習・自己啓発・訓練」、「ボランティア活動」、「スポーツ」、「趣味・娯楽」および「旅行・行楽」）について調査し、仕事や家庭生活に費やされる時間、地域活動等へのかかわりなどの実態を明らかにし、各種行政施策の基礎資料を得ることを目的としている。昭和 51 年以来 5 年ごとに実施しており、平成 28 年社会生活基本調査はその 9 回目に当たる。

2 調査の期日

調査は、平成 28 年 10 月 20 日現在で実施した。

ただし、生活時間については、10 月 15 日から 10 月 23 日までの 9 日間のうち、調査区ごとに指定した連続する 2 日間について調査した。

3 調査の地域

平成 22 年国勢調査の調査区（ただし、平成 27 年国勢調査調査区設定時に境界変更等があった場合は、当該境界変更等を反映）から、総務大臣の指定する 7,311 調査区において調査を行った。このうち、「調査票 A」を用いた調査区は 6,904 調査区、「調査票 B」を用いた調査区は 407 調査区である。

なお、福井県では、全市町で 131 調査区（調査票 A：128 調査区、調査票 B：3 調査区）が対象となった。

4 調査の対象

全国の指定調査区の中から選定した約 88,000 世帯に居住する、10 歳以上の世帯員約 20 万人を対象とした。

なお、福井県では、全市町で 1,562 世帯（調査票 A：1,526 世帯、調査票 B：36 世帯）、約 4,100 人（調査票 A：約 4,000 人、調査票 B：約 100 人）が対象となった。

5 調査事項

調査票の種類	調査事項 ※下線部は調査票 A のみ	
調査票 A および 調査票 B	(1)すべての世帯員に関する事項	ア 世帯主との続柄 イ 出生の年月または年齢 ウ 在学、卒業等教育または保育の状況
	(2)10 歳未満の世帯員に関する事項	育児支援の利用の状況

調査票の種類	調査事項 ※下線部は調査票Aのみ	
調査票A および 調査票B	(3)10歳以上の世帯員に関する事項	ア 氏名 イ 男女の別 ウ 配偶の関係 エ ふだんの健康状態 <u>オ 学習・研究活動の状況</u> <u>カ ボランティア活動の状況</u> <u>キ スポーツ活動の状況</u> <u>ク 趣味・娯楽活動の状況</u> <u>ケ 旅行・行楽の状況</u> <u>コ スマートフォン・パソコンなどの使用状況</u> サ 生活時間の配分および天候
	(4)15歳以上の世帯員に関する事項	ア 介護の状況 イ 就業状態 <u>ウ 就業希望の状況</u> エ 従業上の地位 オ 勤務形態 カ 年次有給休暇の取得日数 キ 仕事の種類 <u>ク 所属の企業全体の従業者数</u> ケ ふだんの1週間の就業時間 コ 希望する1週間の就業時間 サ 仕事からの年間収入
	(5)世帯に関する事項	ア 世帯の種類 イ 10歳以上の世帯員数 ウ 10歳未満の世帯員数 エ 住居の種類 オ 自家用車の所有の状況 カ 世帯の年間収入 キ 介護支援の利用の状況 ク 不在者の有無

用語の説明（生活行動関係）

1 過去1年間に行った行動

この調査では、自由時間における「学習・自己啓発・訓練」、「ボランティア活動」、「スポーツ」、「趣味・娯楽」および「旅行・行楽」について、過去1年間の活動状況をそれぞれの種類別に「行ったか否か」、また、行った場合には、1年間の活動の「頻度」や「目的」、「方法」、「共にした人」などを調査した。

(1) 学習・自己啓発・訓練

個人の自由時間の中で行う学習、自己啓発や訓練をいう。社会人の職場研修や、児童・生徒・学生が学業（授業、予習、復習）として行うものは除き、クラブ活動や部活動は含む。「学習・自己啓発・訓練」については、その内容を次の9種類に分類し調査した。

- ・英語
- ・英語以外の外国語
- ・パソコンなどの情報処理
- ・商業実務・ビジネス関係
- ・介護関係
- ・家政・家事（料理・裁縫・家庭経営など）
- ・人文・社会・自然科学（歴史・経済・数学・生物など）
- ・芸術・文化
- ・その他

(2) ボランティア活動

報酬を目的としないで、自分の労力、技術、時間を提供して地域社会や個人・団体の福祉のために行っている活動をいう。「ボランティア活動」については、対象や目的を次の11種類に分類し調査した。

- ・健康や医療サービスに関係した活動（献血、入院患者の話し相手、安全な食品を広めることなど）
- ・高齢者を対象とした活動（高齢者の日常生活の手助け、高齢者とのレクリエーションなど）
- ・障害者を対象とした活動（手話、点訳、朗読、障害者の社会参加の協力など）
- ・子供を対象とした活動（子供会の世話、子育て支援ボランティア、学校行事の手伝いなど）
- ・スポーツ・文化・芸術・学術に関係した活動（スポーツを教えること、日本古来の文化を広めること、美術館ガイド、講演会・シンポジウム等の開催など）
- ・まちづくりのための活動（道路や公園等の清掃、花いっぱい運動、まちおこしなど）
- ・安全な生活のための活動（防災活動、防犯活動、交通安全運動など）
- ・自然や環境を守るための活動（野鳥の観察と保護、森林や緑を守る活動、リサイクル運動、ゴミを減らす活動など）
- ・災害に関係した活動（災害を受けた人に食べものや着るものを送ること、炊き出しなど）
- ・国際協力に関係した活動（海外支援協力、難民支援、日本にいる外国人への支援活動など）
- ・その他（人権を守るための活動、平和のための活動など）

(3) スポーツ

余暇活動として行う「スポーツ」をいう。職業スポーツ選手が仕事として行うものや、児童・生徒・学生が体育の授業で行うものは除き、クラブ活動や部活動は含む。「スポーツ」については、次の 22 種類に分類し調査した。

- ・野球（キャッチボールを含む）
- ・ソフトボール
- ・バレーボール
- ・バスケットボール
- ・サッカー（フットサルを含む）
- ・卓球
- ・テニス
- ・バドミントン
- ・ゴルフ（練習場を含む）
- ・柔道
- ・剣道
- ・ゲートボール
- ・ボウリング
- ・つり
- ・水泳
- ・スキー・スノーボード
- ・登山・ハイキング
- ・サイクリング
- ・ジョギング・マラソン
- ・ウォーキング・軽い体操
- ・器具を使ったトレーニング
- ・その他のスポーツ

(4) 趣味・娯楽

仕事、学業、家事などのように義務的に行う活動ではなく、個人の自由時間の中で行うものをいう。「趣味・娯楽」については、次の 34 種類に分類し調査した。

- ・スポーツ観覧（テレビ・スマートフォン・パソコンなどは除く）
- ・美術鑑賞（テレビ・スマートフォン・パソコンなどは除く）
- ・演芸・演劇・舞踊鑑賞（テレビ・スマートフォン・パソコンなどは除く）
- ・映画館での映画鑑賞
- ・映画館以外での映画鑑賞（テレビ・DVD・パソコンなど）
- ・音楽会などによるクラシック音楽鑑賞
- ・音楽会などによるポピュラー音楽・歌謡曲鑑賞
- ・CD・スマートフォンなどによる音楽鑑賞
- ・楽器の演奏
- ・邦楽（民謡、日本古来の音楽を含む）
- ・コーラス・声楽
- ・カラオケ
- ・邦舞・おどり
- ・洋舞・社交ダンス
- ・書道
- ・華道
- ・茶道
- ・和裁・洋裁
- ・編み物・手芸
- ・趣味としての料理・菓子作り
- ・園芸・庭いじり・ガーデニング
- ・日曜大工
- ・絵画・彫刻の制作
- ・陶芸・工芸
- ・写真の撮影・プリント
- ・詩・和歌・俳句・小説などの創作
- ・趣味としての読書
- ・囲碁
- ・将棋
- ・パチンコ
- ・テレビゲーム・パソコンゲーム
(家庭で行うもの、携帯用を含む)
- ・遊園地、動植物園、水族館などの見物
- ・キャンプ
- ・その他の趣味・娯楽

(5) 旅行・行楽

旅行は、1泊2日以上にわたって行うすべての旅行をいい、日帰りの旅行を除く。行楽は、日常生活圏を離れ、半日以上かけて行う日帰りのものをいい、夜行日帰りを含む。「旅行・行楽」については、国内・海外および旅行目的を次の 4 種類に分類し調査した。

- ・行楽（半日以上の日帰りをいい、夜行日帰りを含む）
- ・国内観光旅行（レクリエーション・スポーツなどのための旅行を含む）
- ・国内帰省・訪問などの旅行
- ・海外観光旅行（レクリエーション・スポーツなどのための旅行を含む）

2 行動者数、行動者率

(1) 行動者数

過去1年間に該当する種類の活動を行った人（10歳以上）の数。なお、数値は母集団における行動者数の推定値である。

(2) 行動者率

10歳以上人口に占める行動者数の割合。次の式により算出した。

$$\text{行動者率} = \text{行動者数} \div \text{各属性の10歳以上人口} \times 100 (\%)$$

福井県総合政策部政策統計・情報課

〒910-8580

福井市大手3丁目17番1号

電話 0776-20-0273(ダイヤルイン)

0776-21-1111(代表)

内線 2376(人口・生活統計グループ)

政策統計・情報課ホームページ

<http://www.pref.fukui.lg.jp/doc/toukei-jouhou/>